

3. 教育ファーム等体験活動の国産需要拡大の効果の検証

3.1 調査の実施

3.1.1 アンケート調査の設計

(1) 調査の目的

教育ファームが、参加者の農林水産業への理解増進、食生活や食料消費の改善、国産農林水産物の消費拡大にどの程度効果があるか定量的に評価することを目的とした。

(2) 調査項目

以下の項目について、それぞれ教育ファームによる意識・行動変容の効果を測る設問を設定した。なお、具体的な調査項目については、別添 3 に示した。

表 6 教育ファーム等体験活動におけるアンケート調査

1. 農に関する体験、身近さ
2. 農業・農村の多面的機能に対する意識
3. 地産地消・国産品の消費に対する意識・行動変容
4. 食・食文化に対する意識・理解
5. 地域とのつながり
6. 農業に対する意識・理解

(3) 調査対象

アンケートの対象は成人（20～60 代以上）とした。教育ファームの体験者が未成年の場合は、一般層向けアンケートとの比較が困難なため、今回の調査対象からは除くものとした。

(4) 調査方法

① 経験者向けアンケート

教育ファームに事前にお伺いし、参加者へのアンケート調査にご協力いただける教育ファームの参加者に対し、アンケート調査を実施した。具体的には、アンケートへの協力を承諾いただいた教育ファームに対して調査票（紙）を郵送し、体験・アンケート回収が終了した教育ファームから順次郵送回収を行った。

② 一般層向けアンケート

比較対象群として、①経験者向けアンケートと同様の内容のアンケート調査を、web モニターを対象に実施した。なお、「食生活や食料消費の実態・将来予測を踏まえた課題等の整理の調査」と同時実施とした。

また、経験者向けアンケートと共通の調査項目に加えて、教育ファームや類似の農業経験の有無を問う設問を加え、属性別の分析を可能とした。

3.1.2 調査結果

(1) 配布・回収状況

アンケートの配布期間は平成 26 年 6 月 25 日～10 月 28 日であった。また、有効回答数は 666 件（無効回答 21 票）で、回収率は 36.0%であった。

配布、回収状況を表 7 に示した。

表 7 教育ファームアンケートの配布・回収状況

体験種類	教育ファーム数(件)	予定票数	回収数
農業	20	987	417
農業・畜産	1	80	50
畜産	11	620	145
水産	2	163	75
合計	34	1850	687

なお、クロス集計分類は表 8 の通りとした。

表 8 クロス集計分類

分類	回答者数
< 1 >教育ファーム体験あり（紙アンケート）	666 名
< 2 >教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり	856 名
< 3 >農林漁業体験が全くない	1,983 名

(2) 教育ファーム参加経験者の特徴

1) 体験の参加のきっかけ・頻度・継続性について

- ・ 「子供が参加したから」、「日頃から国産の米や野菜などを食べていて、その生産現場が知りたかったから」という回答が多い。(Q5)
- ・ 1 年間の参加回数が多い回答者、継続的に参加しているという回答者が多い。(Q7, Q8)

2) 農林水産業への理解について

- ・ 農林漁業に対する正しい知識を持っている人が多い。(多面的機能(Q10)、自給率(Q16))
- ・ 「農林漁業者から話を聞いた経験」や「食や農林漁業関係のセミナーに参加した」ことがあるなど、学習経験がある人が多い。(Q3)

3) 食生活・食料消費の変容について

- ・ 普段は、「なるべく日本産のものを食べる」「住んでいる地域や自分の生まれ故郷ならではの食べ物があることを知っている」「旬の食材を日々の食卓に取り入れる」といった傾向がある。(Q2)

- 教育ファームの体験活動をきっかけに、「なるべく日本産のものを食べる」「食事はなるべく残さず食べる」「野菜を多く食べるなど栄養バランスのとれた食事を心がける」といった意識や行動の変化が生まれている。(Q9)

4) 国産農林水産物の消費拡大について

- 「作っている人を信頼できる」「国産のものを応援したい」といった意識から、国産品を選択している人が、教育ファーム参加経験者がいない人より多い。(Q12)
- 中食や外食において、「日本産原材料が使用されていることが強調されている」ものを選択する人が、教育ファーム参加経験がない人より多い。(Q14,Q15)

5) 参加動機・体験種類別の効果

- 能動的動機で参加した人の方が、受動的動機で参加した人よりも、体験による効果がより高い傾向がある。一方、受動的動機で参加した人にも、一定の効果が見られた。(Q9×Q5)
- 教育ファーム体験の方が、その他の農業体験よりも体験による効果が高い傾向がある。教育ファーム体験のうちでも、加工体験の方が、より体験効果が高い傾向がある。なお、加工体験をした人のうちの多くが農業体験もしており、生産から、実際に食べるところまでの体験の二つを併せて経験することにより、より高い効果があると考えられる。(Q9×Q6)

(3) クロス集計分類

分類	回答者数
〈1〉教育ファーム体験あり（紙アンケート）	6 6 6 名
〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり	8 5 6 名
〈3〉農林漁業体験が全くない	1 9 8 3 名

※ 〈2〉〈3〉は、教育ファーム等体験活動に関するWEBアンケート調査による回答者。

Q1a. 年齢



図 18 年齢

Q1b. 性別

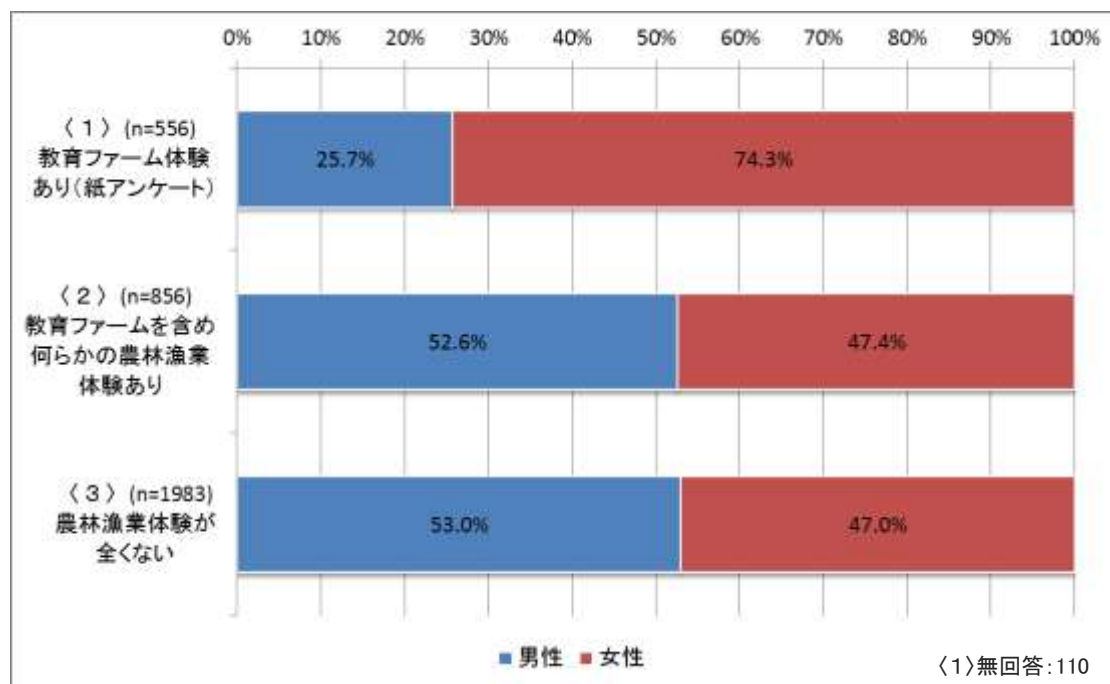


図 19 性別

Q2. 普段の意識や行動、状況について（複数回答）

- 「食事はなるべく残さず食べる」ことは、どのグループも 80%以上の回答者が行っている。
- 「野菜を多く食べるなど栄養バランスのとれた食事を心がける」という点では、農業体験の経験があるグループ<1><2>が 80%近い回答者がいるのに対し、農業体験の経験がないグループ<3>では、60%あまりに留まった。また、「住んでいる地域や自分の生まれ故郷ならではの食べ物があることを知っている」、「旬の食材を日々の食卓に取り入れる」といった点でも、<1><2>のグループに比べ<3>のグループが低いという傾向が見られる。

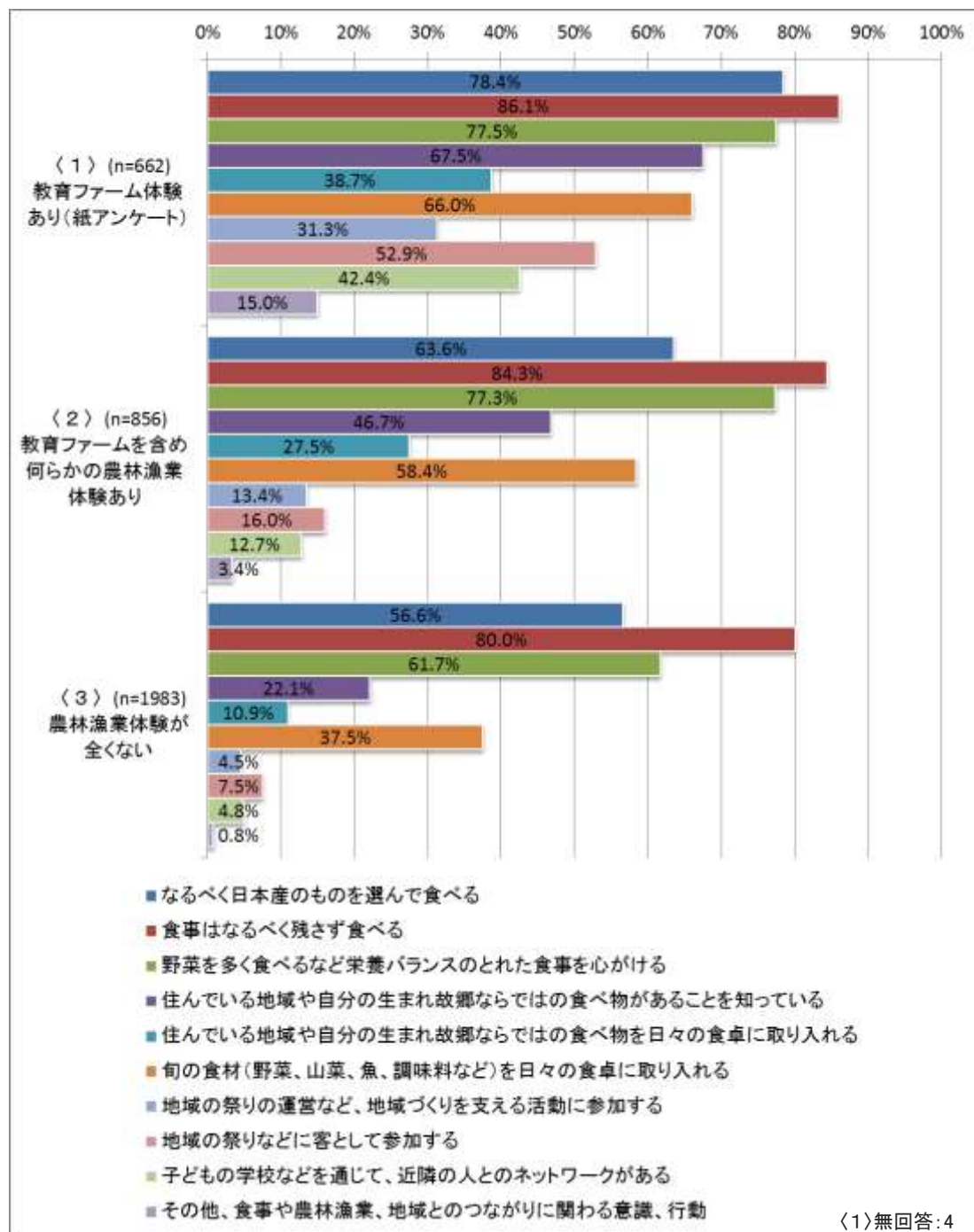


図 20 普段の意識や行動、状況について（複数回答）

Q3. 農林漁業についての学習経験（複数回答）

- 農業体験の経験がないグループ<3>のおよそ 80%が「農林漁業について学んだことはない」と回答したのに対し、農業体験の経験があるグループ<1><2>は、半数以上の回答者がなんらかの形で農林漁業の学習経験があると回答している。
- 教育ファームに参加した経験があるグループ<1>では、「農林漁業者から話を聞いたことがある」（35.5%）や、「食や農林漁業関係のセミナー等に参加した」（27.0%）と回答した割合が、その他のグループよりも高くなっている。

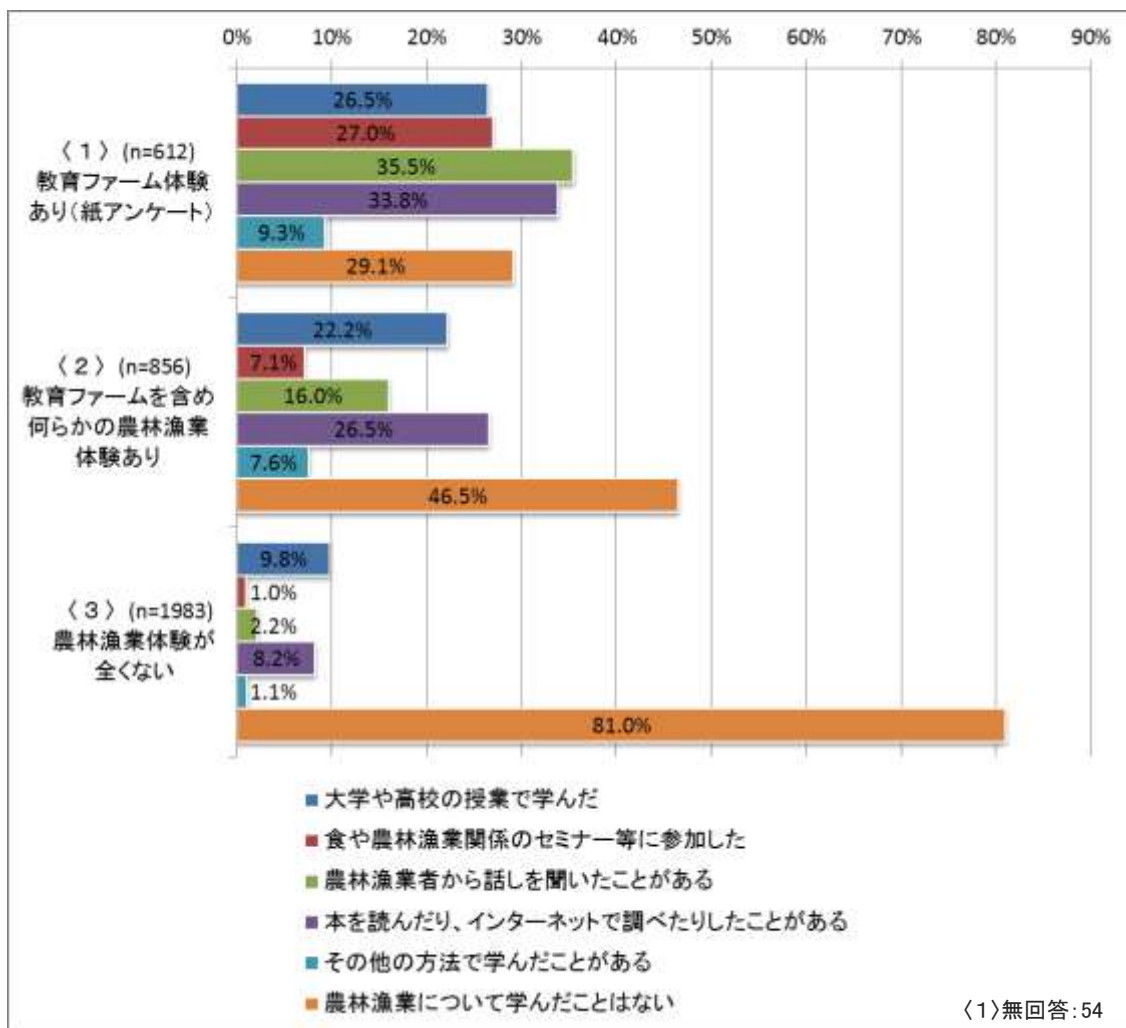


図 21 農林漁業についての学習経験（複数回答）

Q4. 農林漁業について（複数回答）

- 農業体験の経験があるグループ<1><2>は、「現在住んでいる地域は、どちらかという
と農林漁業が盛んである」と回答する者の割合が約 30%以上となっており、農業体験
の経験がないグループ<3>よりもそうした地域に住んでいる割合が高くなっている。
- 教育ファームに参加した経験があるグループ<1>では、「現在住んでいる地域は、どち
らかという農林漁業が盛んである」（37.5%）、「親や兄弟が農林漁業に従事していた
ことがある」（24.4%）といった回答が、他のグループに比べて高い。

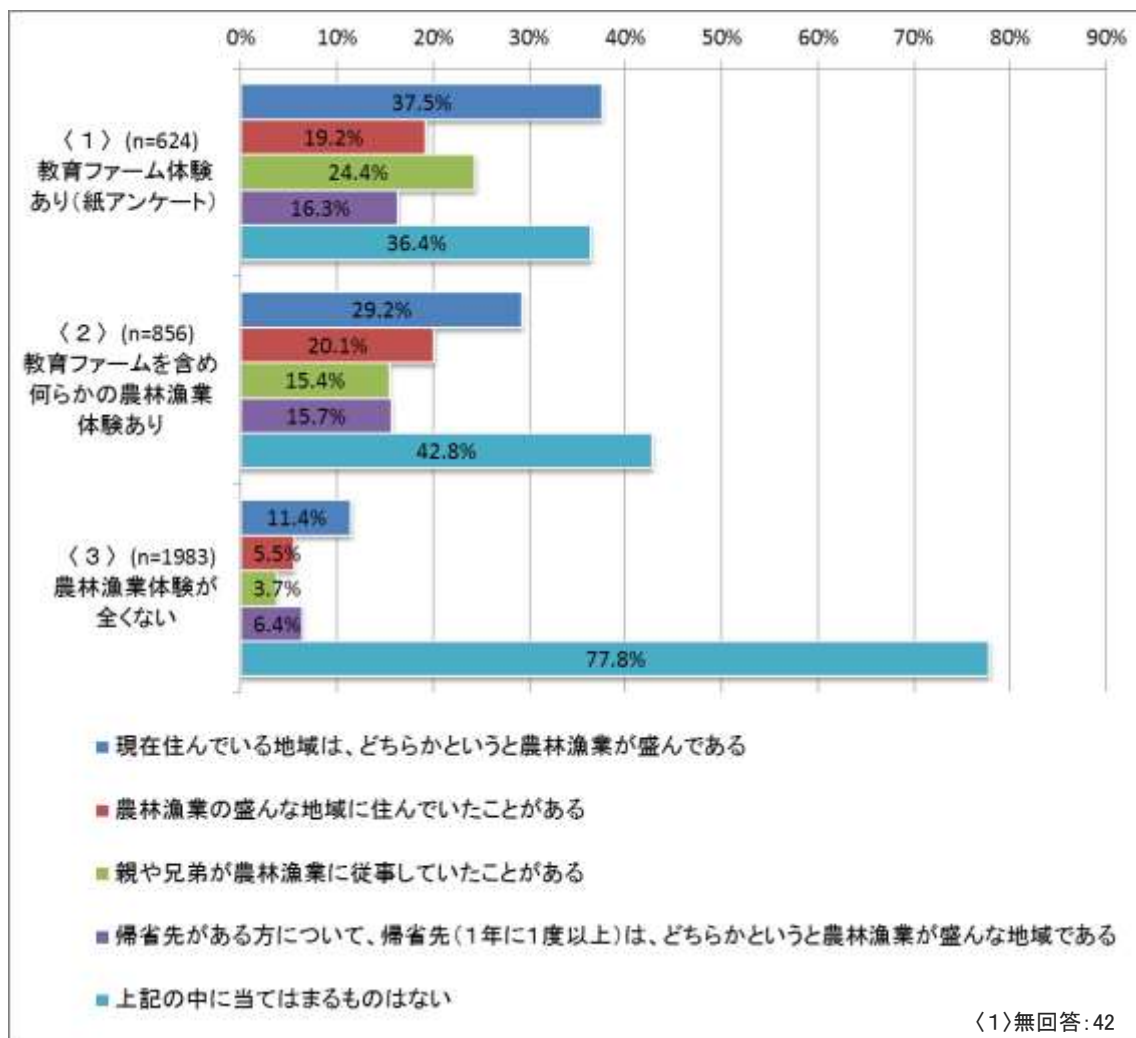


図 22 農林漁業について（複数回答）

Q5. 農林漁業の体験活動に参加することになった理由

- グループ<2>において、「特に興味はなかったが、友人・知人などに誘われたから」(22.8%)という回答がもっとも多くなっている。
- グループ<1>では、「子供が参加したから」(26.6%)という回答がもっとも多くなっている。また、「日頃から国産の米や野菜などを食べていて、その生産現場が知りたかったから」という回答が19.8%と、グループ<2>の10.4%と比較して多い。

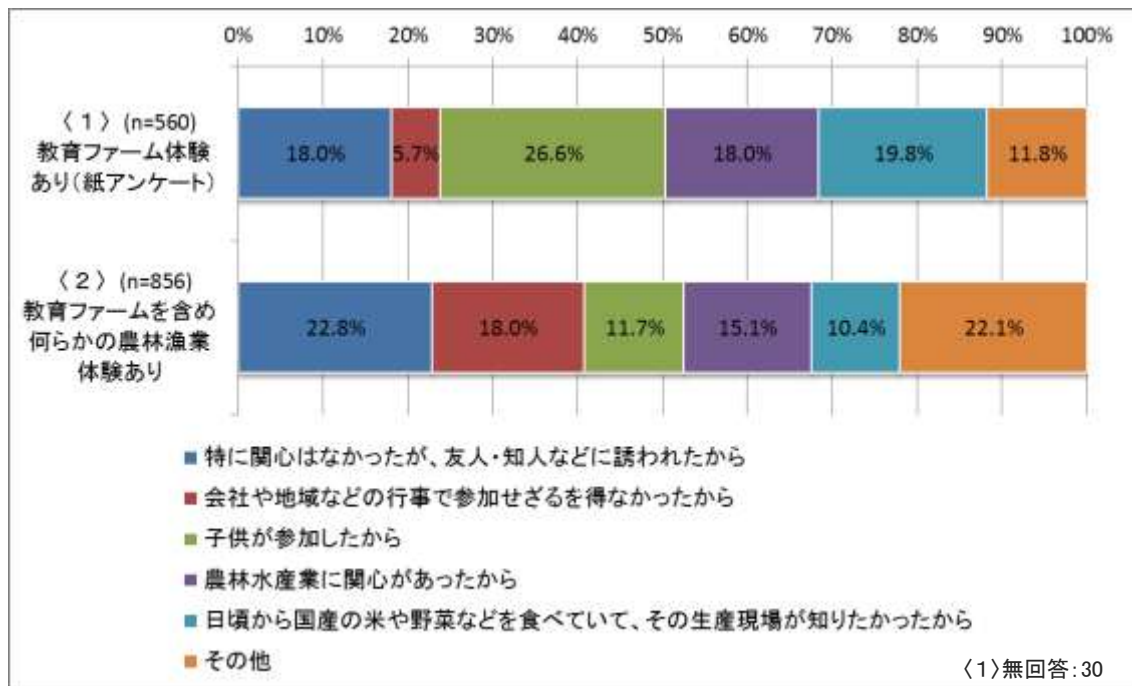


図 23 農林漁業の体験活動に参加することになった理由

Q6. 農林漁業に関する体験活動への参加について（複数回答）

- 参加した体験活動の内容としては、グループ<1>では、「生産者と交流しながら田植え・稲刈り・野菜収穫などの体験」がもっとも多く、次いで「観光農園等（果樹園等）での収穫体験」が多くなっている。
- グループ<2>では、「家庭菜園・市民農園（農業者の指導なし）」がもっとも多く、次いで「観光農園等（果樹園等）での収穫体験」が多くなっている。

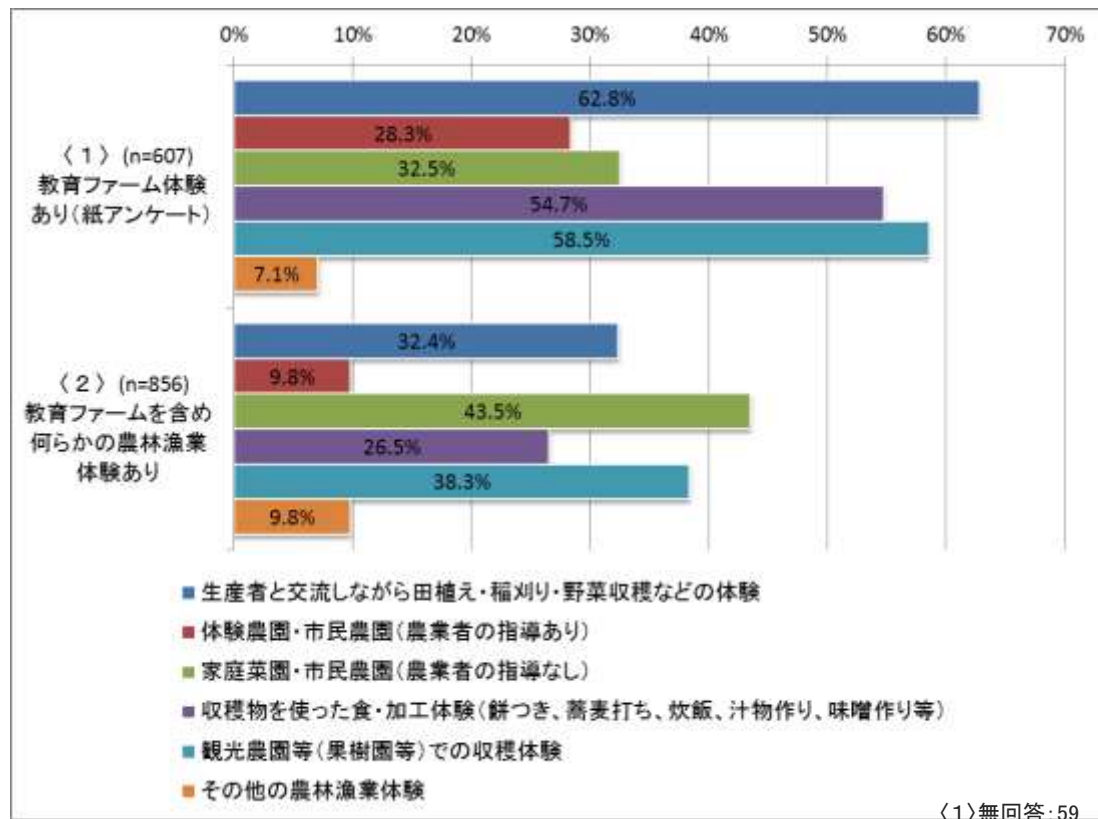


図 24 農林漁業に関する体験活動への参加について（複数回答）

Q7. 農林漁業の体験活動への参加頻度

- どちらのグループも「年に1回程度」の参加者がもっとも多くなっている。
- 教育ファーム参加経験があるグループ<1>は、グループ<2>と比べて参加頻度の高い回答者が多い。

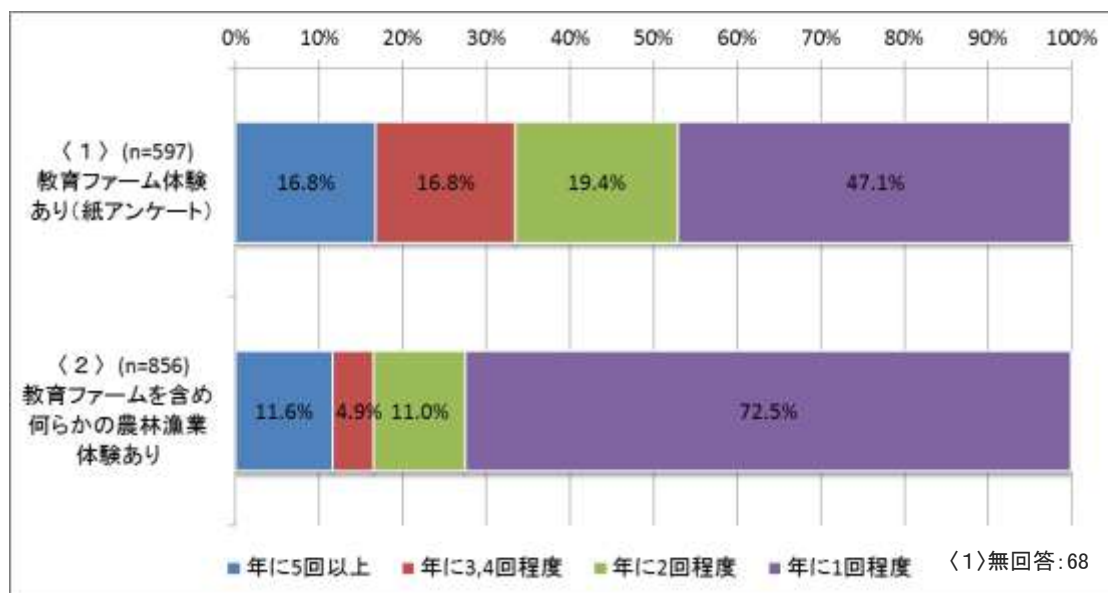


図 25 農林漁業の体験活動への参加頻度

Q8. 農林漁業の体験活動への参加年数

- グループ<1>では、継続的に参加しているという回答者が多い。
- グループ<2>は「過去に参加していたが、現在は参加していない」がもっとも多い回答であった。

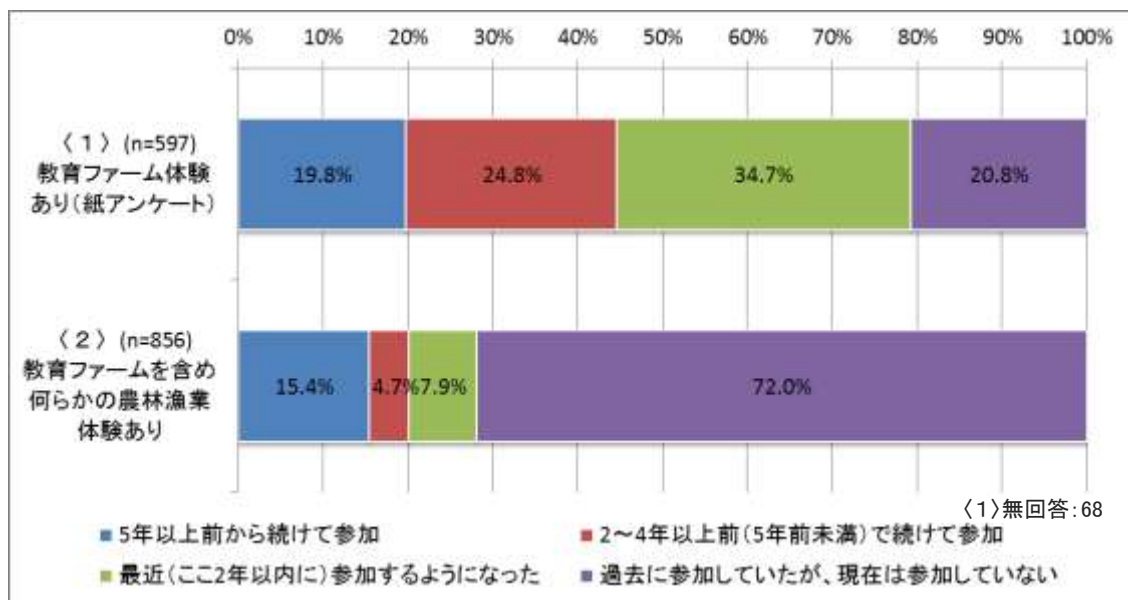


図 26 農林漁業の体験活動への参加年数

Q9. 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（複数回答）

- 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけにした意識や行動の変化では、「なるべく日本産のものを選んで食べる」「食事はなるべく残さず食べる」、「野菜を多く食べるなど栄養バランスのとれた食事を心がける」と回答した者が多かった。
- その回答割合は、グループ<1>が<2>より高くなっていることが特徴である。

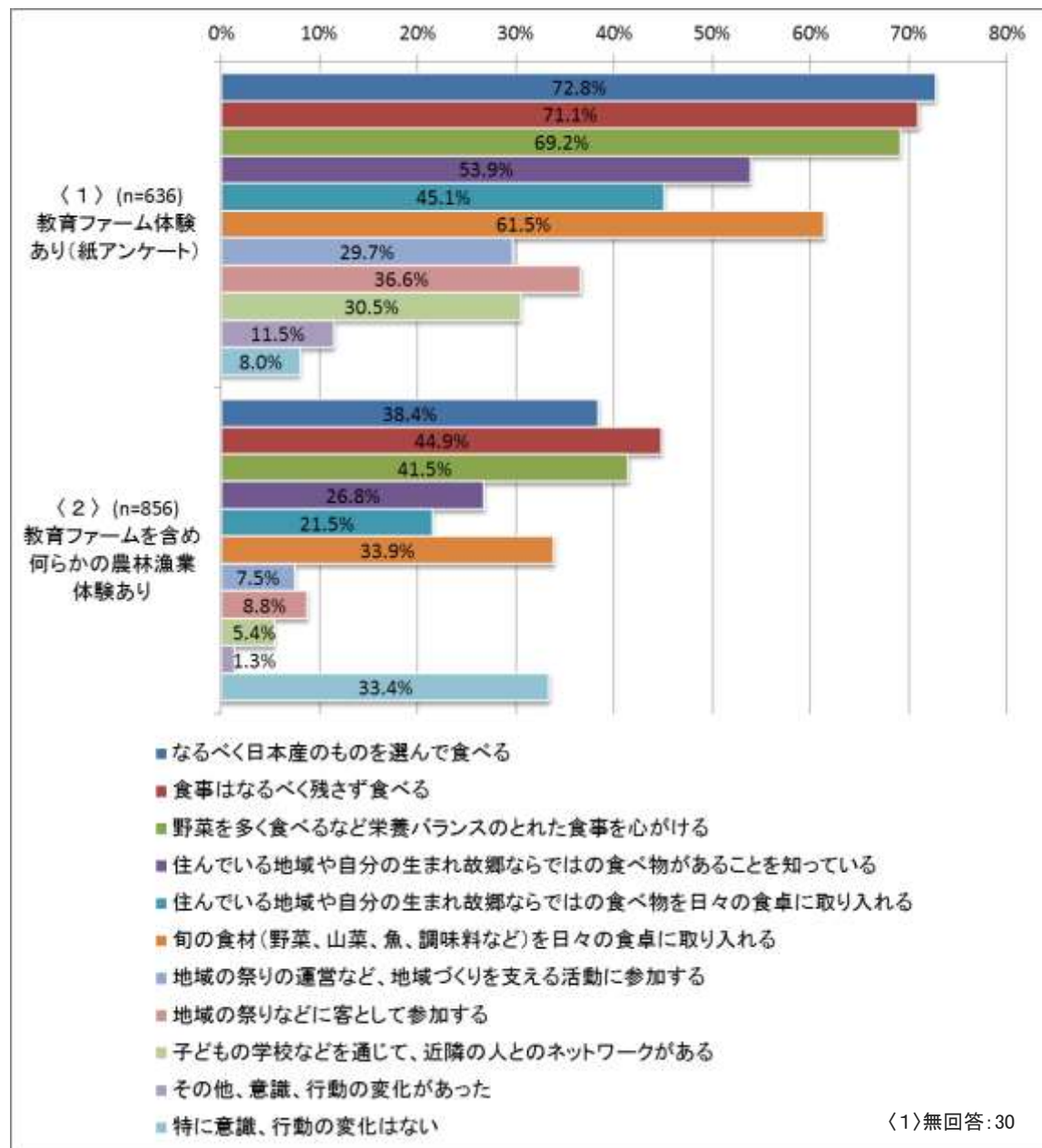


図 27 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（複数回答）

Q10. 農業・農村が多面的な機能を生み出していることについて

- グループ<3>のおよそ 7 割が「知らなかった」と回答しているのに対し、<1><2>のグループは、過半数が「知っていた」と回答しており、その差が明確になった。
- 「知っていた」という回答は、グループ<1>が最も多かった。

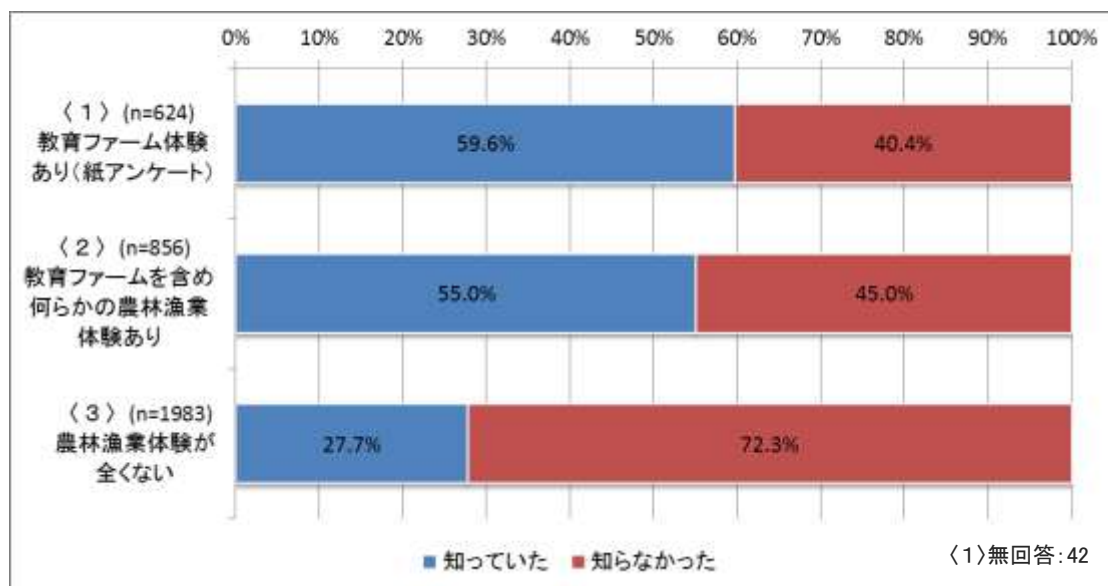


図 28 農業・農村が多面的な機能を生み出していることについて

【米】

Q11. 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について

- 米の購入についての選好では、どのグループでも 8 割以上の回答者が「常に日本産を選んで購入している」と回答しており、強い国産志向がうかがえる。

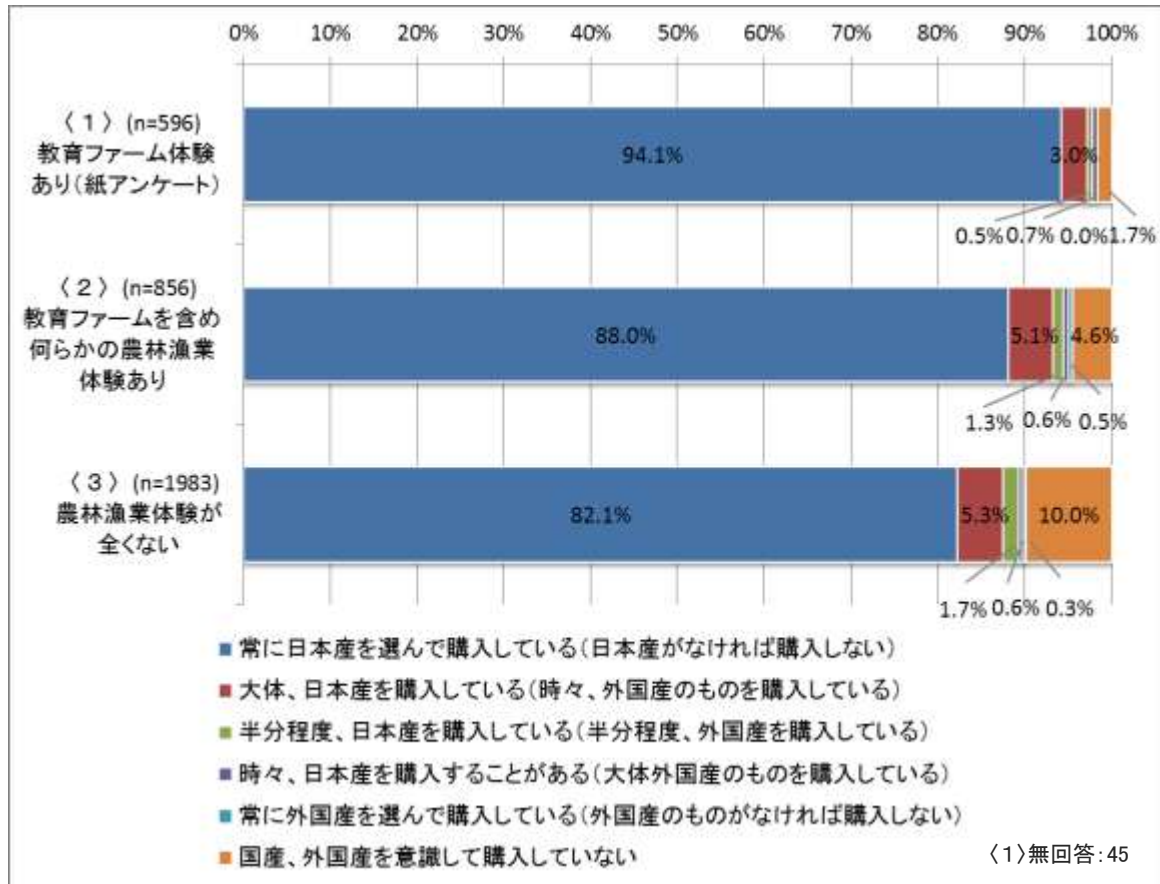


図 29 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について 【米】

Q12a. 日本産を選ぶ理由（複数回答）

- 米の購入に際して日本産を選ぶ理由は、どのグループにも大きな差はなく、ほぼ 8 割の回答者が「安全である」ことを理由に挙げ、次に「おいしい」ことが多く挙げられている。
- グループ<1>では、「作っている人を信頼できる」「国産の物を応援したい」といった回答が、他のグループより多い。

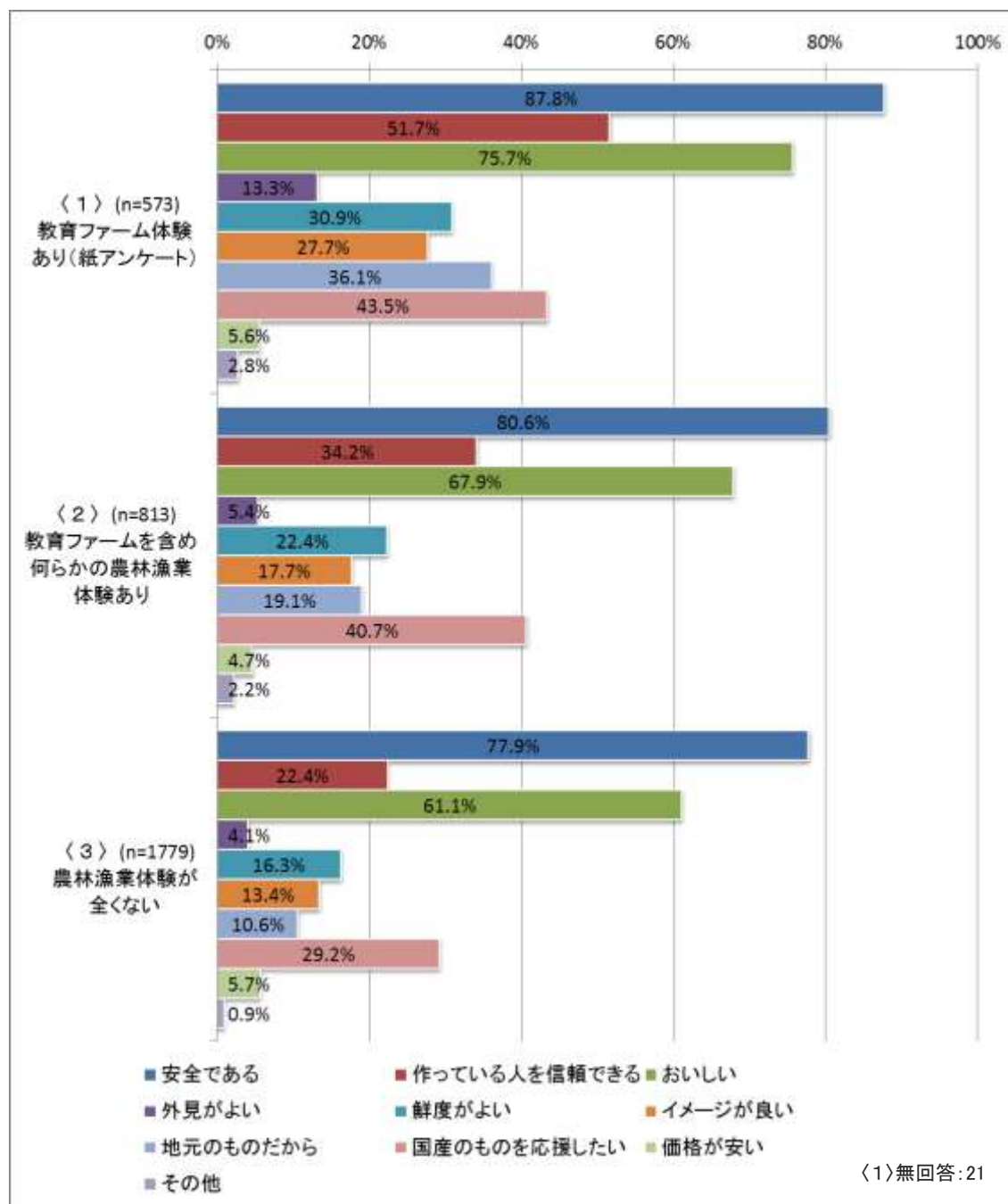


図 30 日本産を選ぶ理由（複数回答）【米】

Q12b. 外国産を選ぶ理由（複数回答）

- 米の購入に際して外国産を選ぶ理由としては、どのグループも「価格が安い」ことがもっとも多く、その次に「安全である」という回答が多くなっており、グループによる差は見られない。

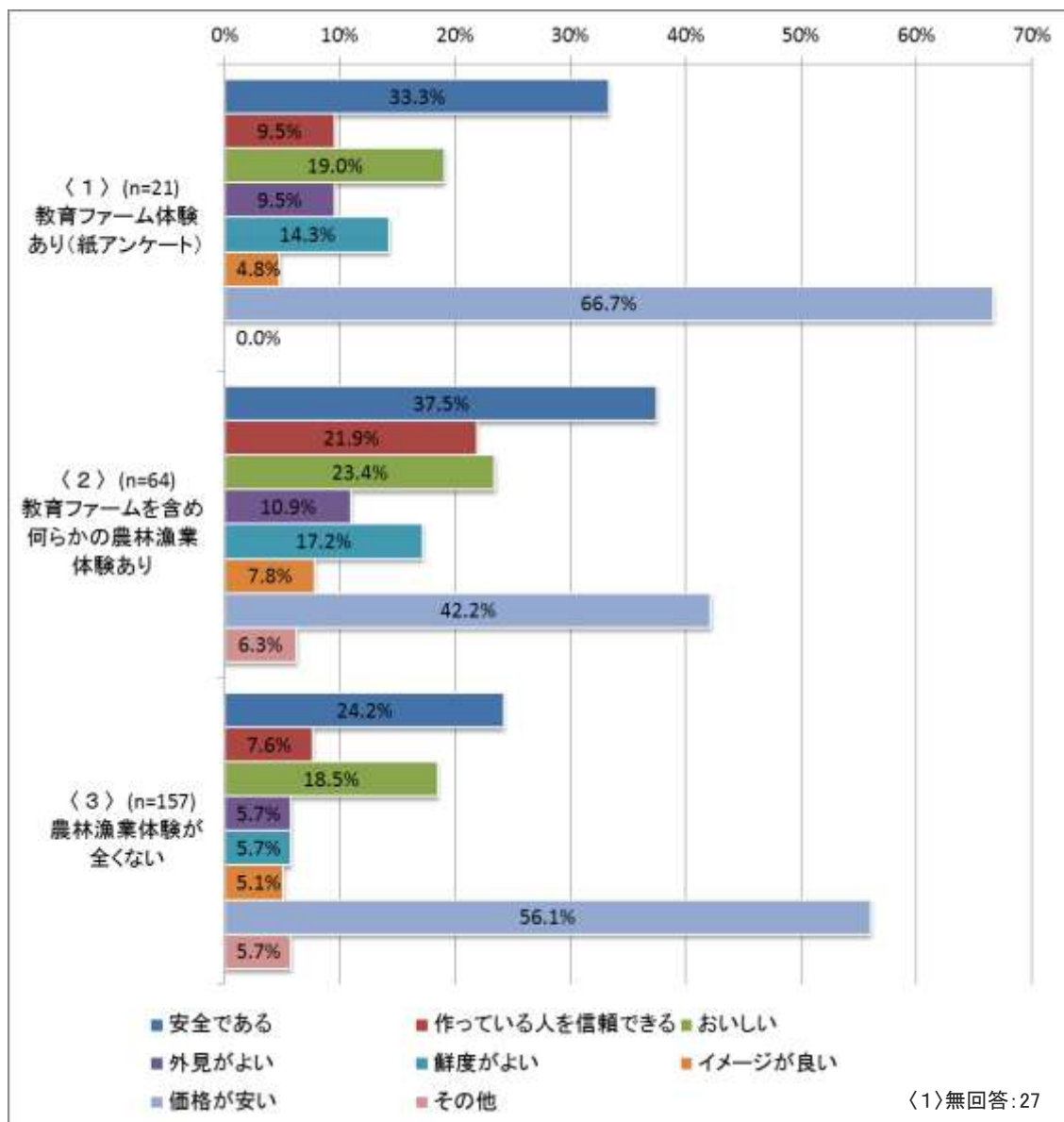


図 31 外国産を選ぶ理由（複数回答）【米】

【肉類（牛肉や豚肉など）】

Q11. 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について

- 肉類の購入に関する選好では、どのグループも「大体、日本産を購入している」という回答が最も多く、次に「常に日本産を選んで購入している」という回答が多くなっていた。この2つの回答においてグループ<1><2>ともグループ<3>を上回っている。

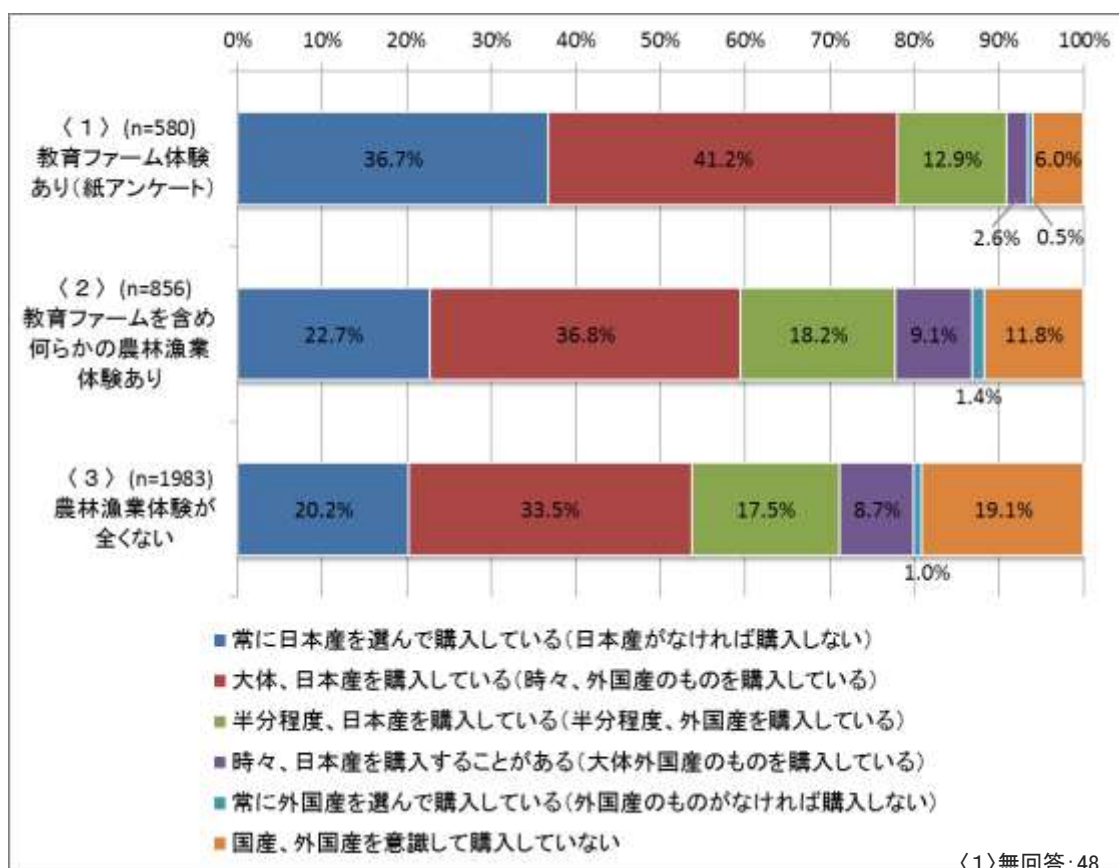


図 32 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について

【肉類（牛肉や豚肉など）】

Q12a. 日本産を選ぶ理由（複数回答）

- 肉類の購入に際して日本産を選ぶ理由は、どのグループでも、「安全である」ことが最も多い理由で、次に「おいしい」が 2 番目に多い理由となっている。このほか、グループ<3>では、そのほかのグループと比べて「国産のものを応援したい」という回答の割合が10%以上低くなっていることが特徴的である。
- グループ<1>では、「作っている人を信頼できる」「国産の物を応援したい」といった回答が、その他のグループより多い。

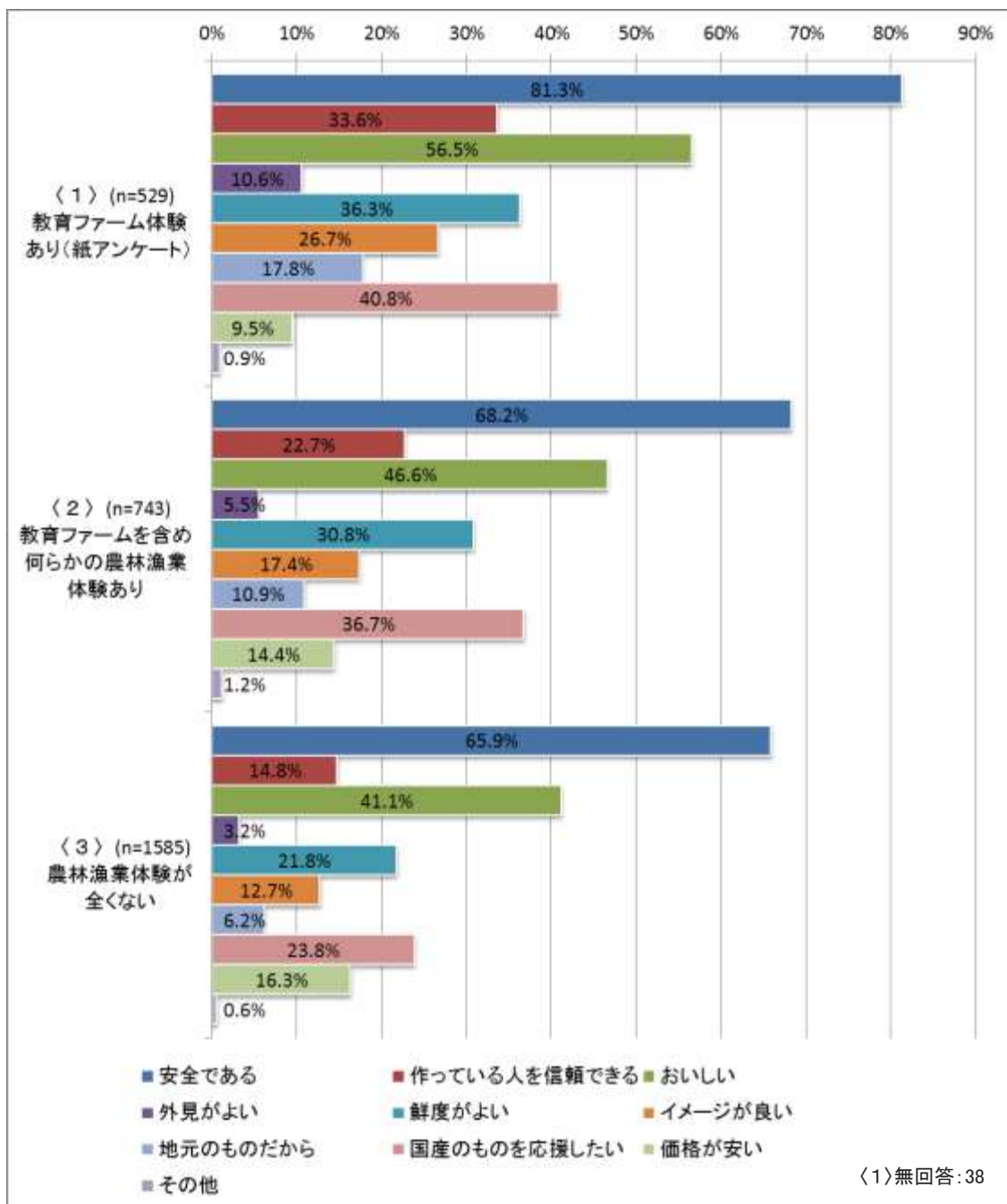


図 33 日本産を選ぶ理由（複数回答）【肉類（牛肉や豚肉など）】

Q12b. 外国産を選ぶ理由（複数回答）

- 肉類の購入に際して外国産を選ぶ理由としては、どのグループも 60%以上の回答者が「価格が安い」ことを理由に挙げている。

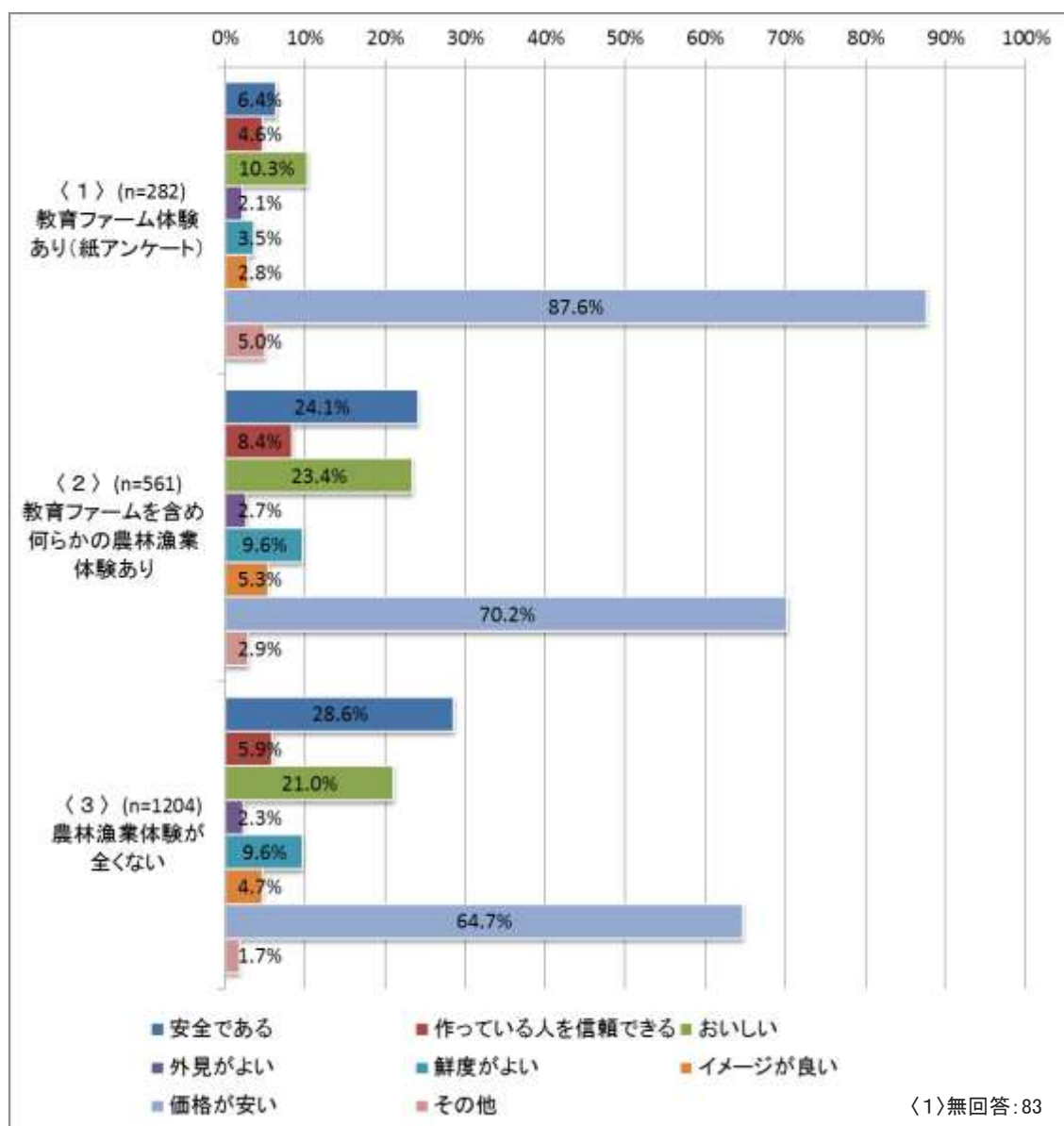


図 34 外国産を選ぶ理由（複数回答）【肉類（牛肉や豚肉など）】

【魚介類（サケ、タコなど）】

Q11. 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について

- 魚介類の購入に関する選好では、どのグループも「大体、日本産を購入している」という回答が最も多い。グループ<1>では、「常に日本産を選んで購入している」という回答が2番目に多いが、グループ<2><3>では「半分程度、日本産を購入している」という回答のほうが、常に日本産を購入するという回答よりも多かった。

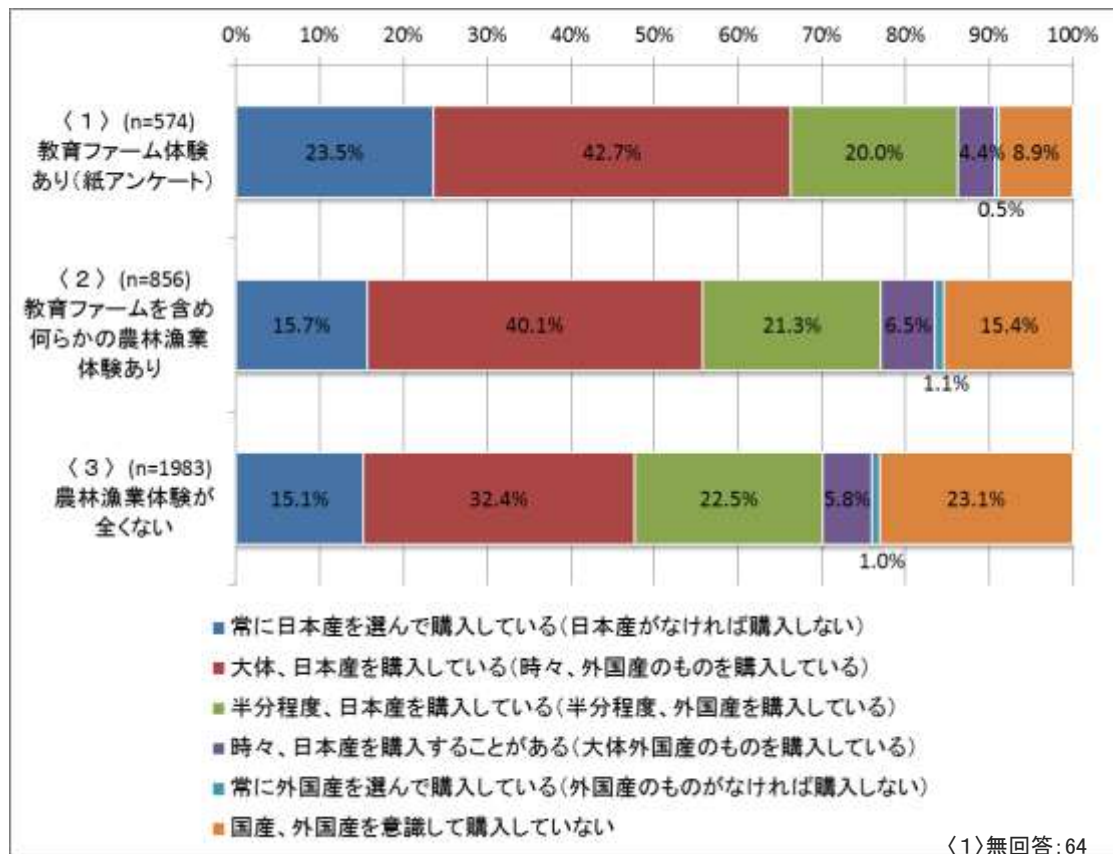


図 35 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について

【魚介類（サケ、タコなど）】

Q12a. 日本産を選ぶ理由（複数回答）

- 魚介類の購入についての選好では、どのグループにも大きな差はなく、「安全である」が最多の理由で、「鮮度がよい」が2番目の理由となっていた。また、肉類と同様に、グループ<3>では、「国産のものを応援したい」という回答の割合が10%程度低くなる傾向があった。
- グループ<1>では、「作っている人を信頼できる」といった回答が、その他のグループより多い。

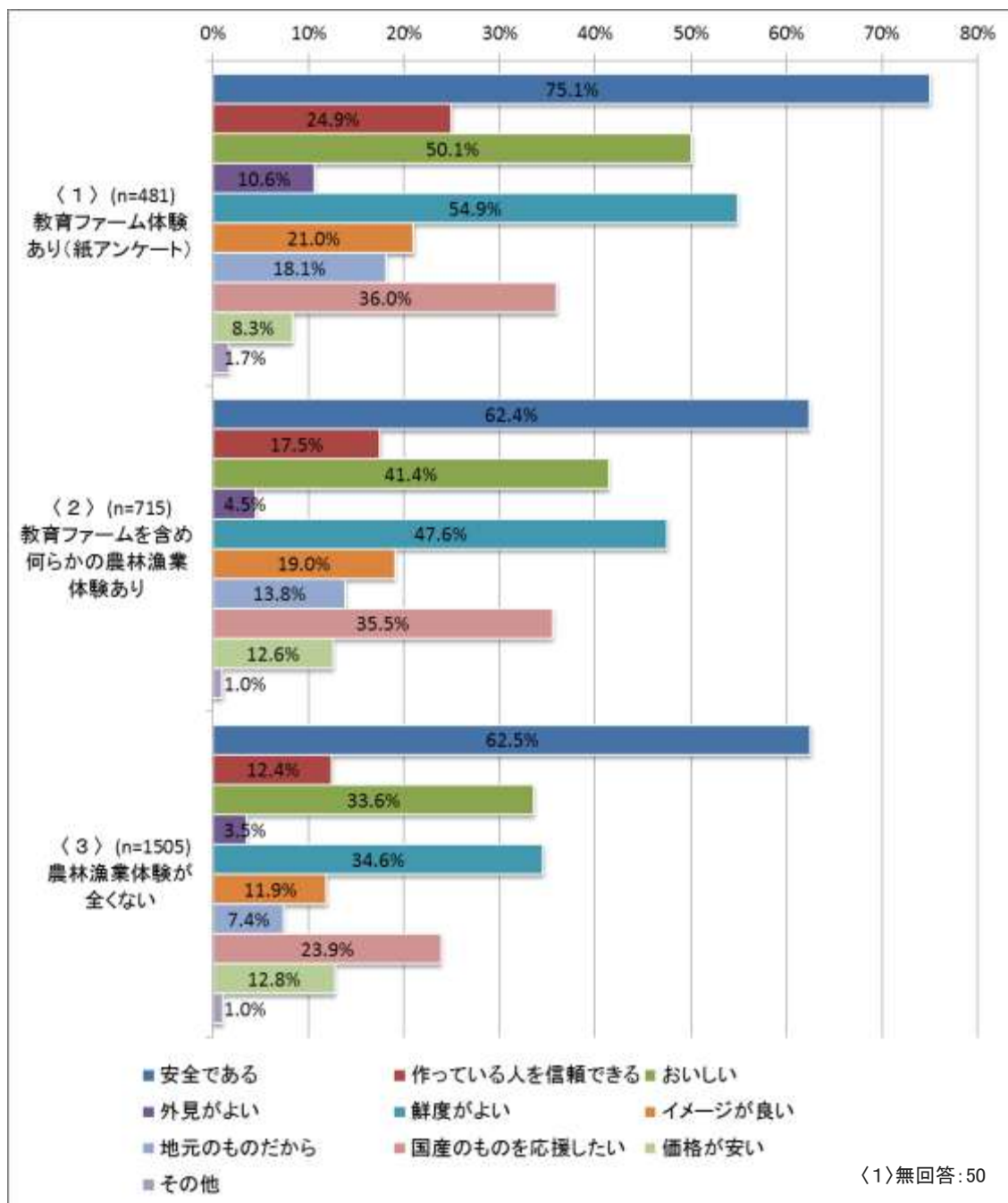


図 36 日本産を選ぶ理由（複数回答）【魚介類（サケ、タコなど）】

Q12b. 外国産を選ぶ理由（複数回答）

- 魚介類の購入に際して外国産を選ぶ理由としては、どのグループも半数程度の回答者が「価格が安い」ことを理由に挙げている。

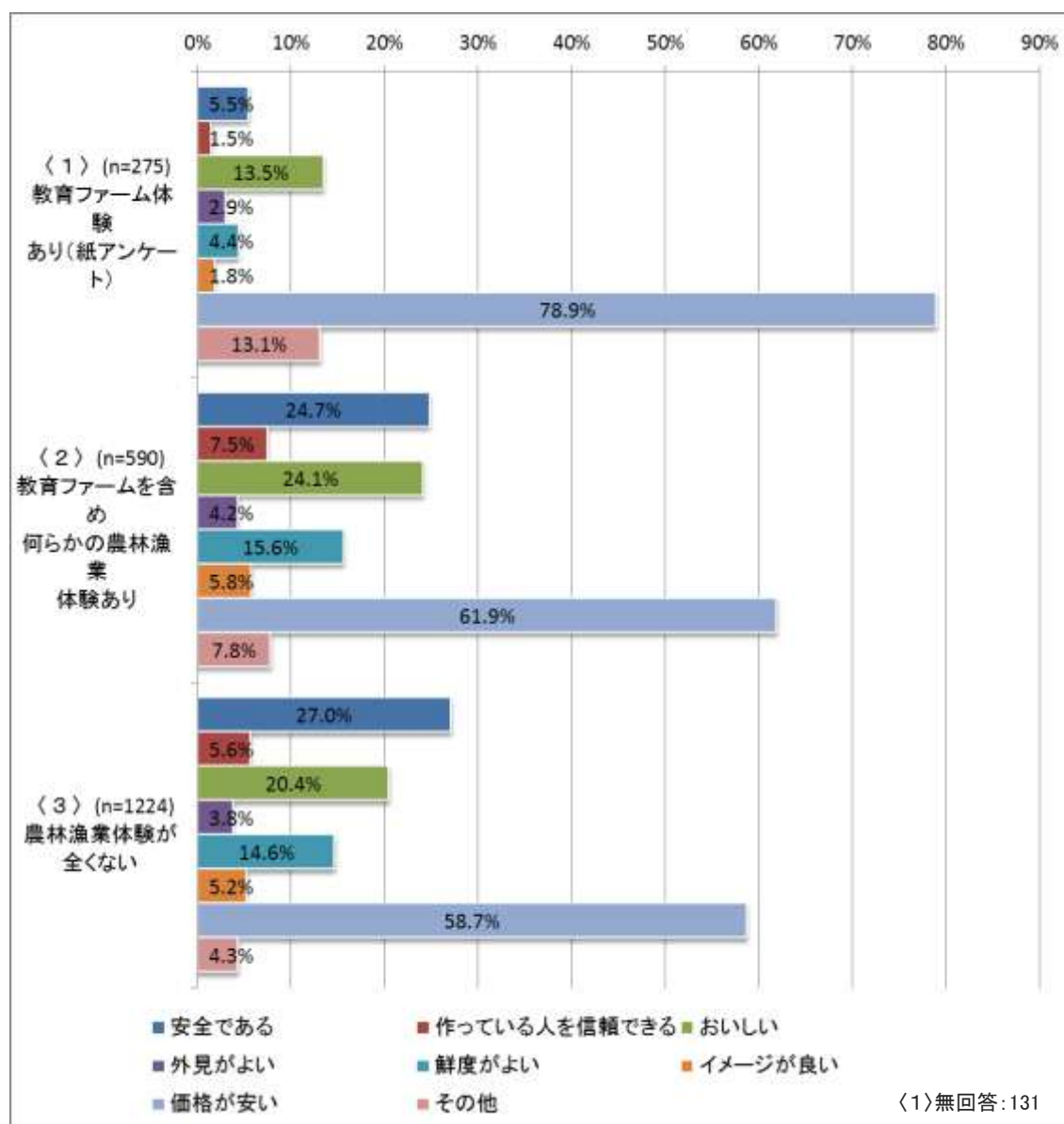


図 37 外国産を選ぶ理由（複数回答）【魚介類（サケ、タコなど）】

【野菜（ブロッコリー、パプリカ、ニンニクなど）】

Q11. 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について

- 野菜類の購入に関する選好では、どのグループも「大体、日本産を購入している」と「常に日本産を選んで購入している」が多い回答であった。この2つの回答においてグループ<1><2>ともグループ<3>を上回っている。
- グループ<3>では、「国産、外国産を意識して購入していない」という回答割合が18.5%と、他のグループに比べて多くなっていた。

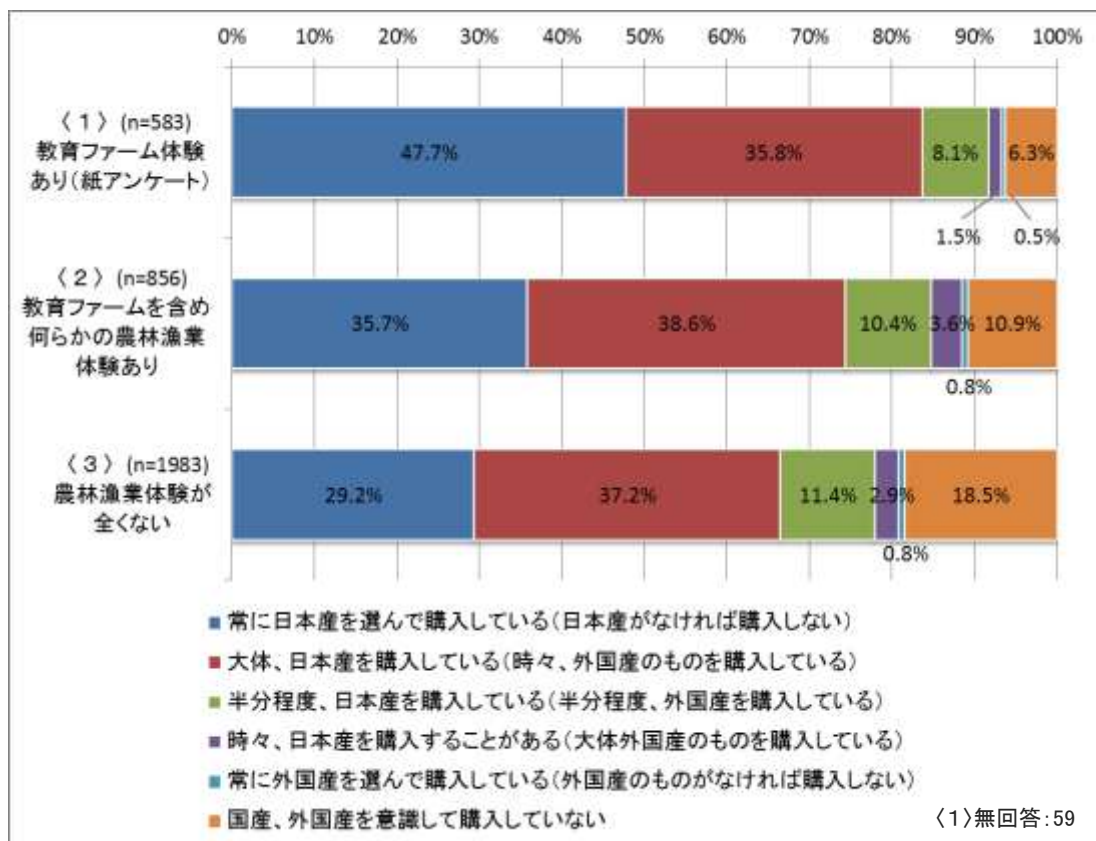


図 38 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について
【野菜（ブロッコリー、パプリカ、ニンニクなど）】

Q12a. 日本産を選ぶ理由（複数回答）

- 野菜の購入に関する選好では、どのグループでも「安全である」という理由の回答が多く、これに次いで「おいしい」「鮮度がよい」という回答が多くなっている。
- グループ<1>では、「作っている人を信頼できる」「国産の物を応援したい」といった回答が、その他のグループより多い。

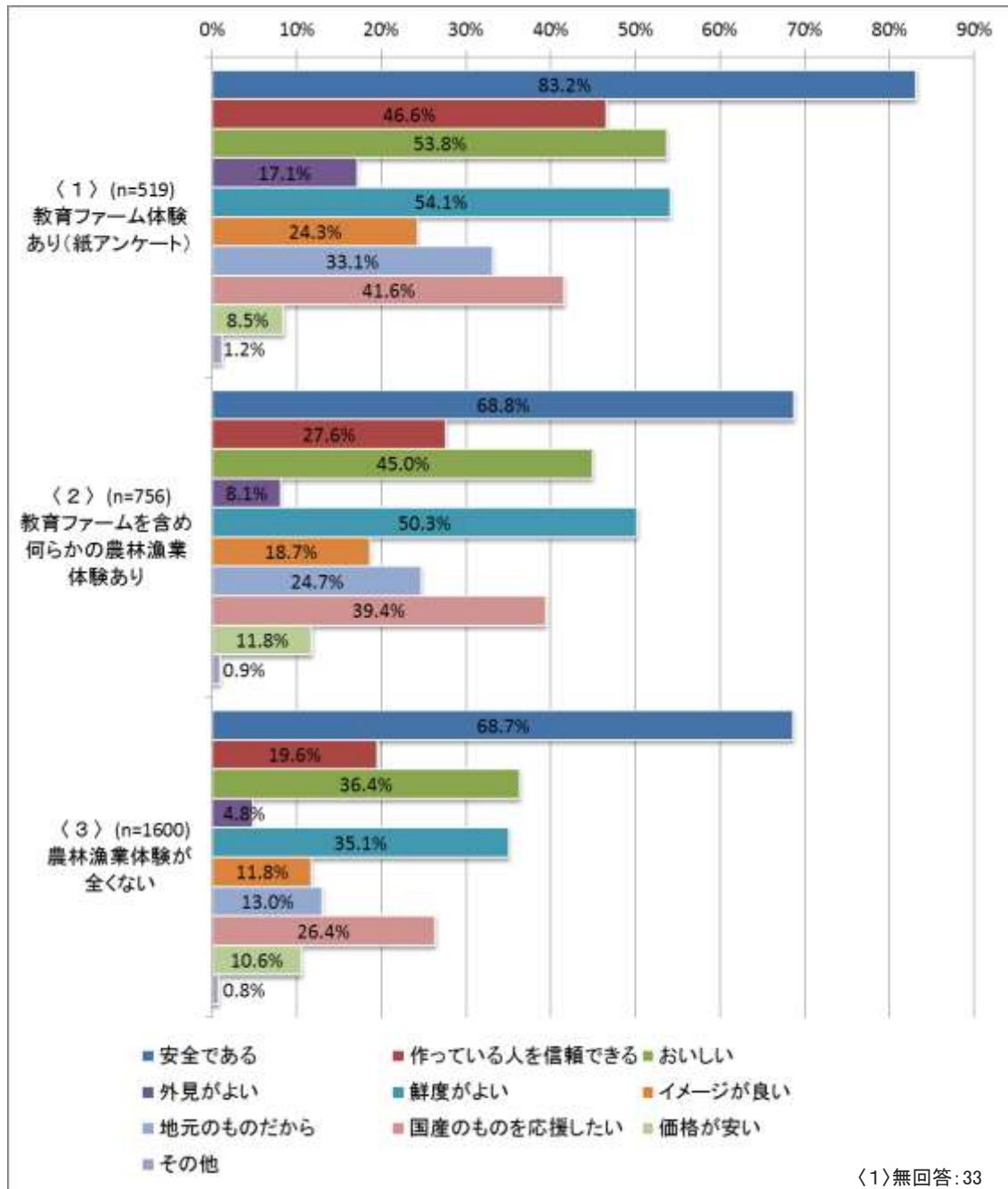


図 39 日本産を選ぶ理由（複数回答）【野菜（ブロッコリー、パプリカ、ニンニクなど）】

Q12b. 外国産を選ぶ理由（複数回答）

- 野菜の購入に際して外国産を選ぶ理由としては、どのグループも半数程度の回答者が「価格が安い」ことを理由に挙げている。

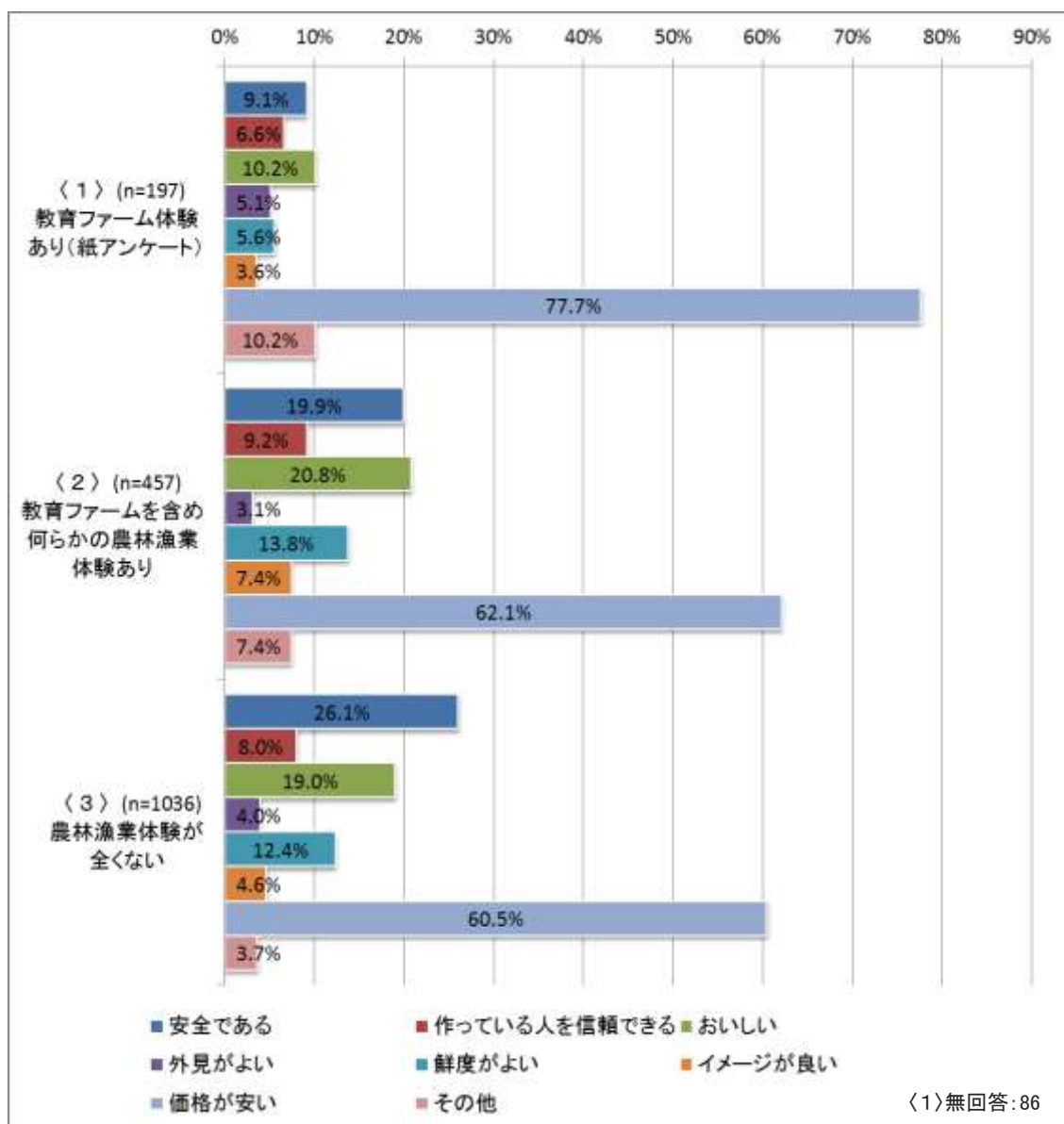


図 40 外国産を選ぶ理由（複数回答）【野菜（ブロッコリー、パプリカ、ニンニクなど）】

【果物（かんきつ類、ぶどうなど）】

Q11. 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について

- 果物の購入に関する選好では、どのグループでも「大体、日本産を選んで購入している」がもっとも多かった。また、グループ<1>では「常に日本産を選んで購入している」が2番目に多い回答であるのに対し、グループ<2>では「半分程度、日本産を購入している」が、グループ<3>では「国産、外国産を意識して購入していない」が2番目に多い回答となっている。

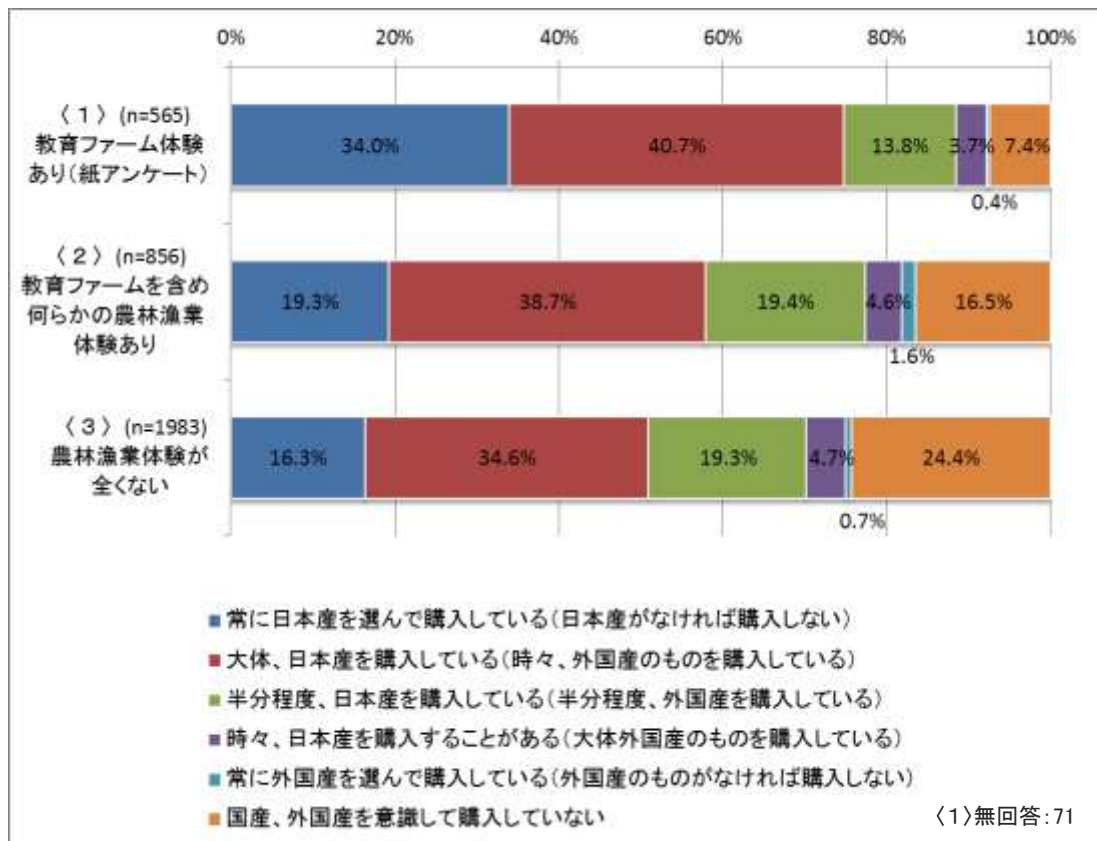


図 41 同じ種類の食べ物で日本産と外国産がある場合の購入について
【果物（かんきつ類、ぶどうなど）】

Q12a. 日本産を選ぶ理由（複数回答）

- 果物の購入に関する選好では、どのグループも、国産を選ぶ理由として「安全である」という回答がもっとも多く、次に「おいしい」が挙げられている。
- グループ<1>では、「作っている人を信頼できる」「国産の物を応援したい」といった回答が、その他のグループより多い。

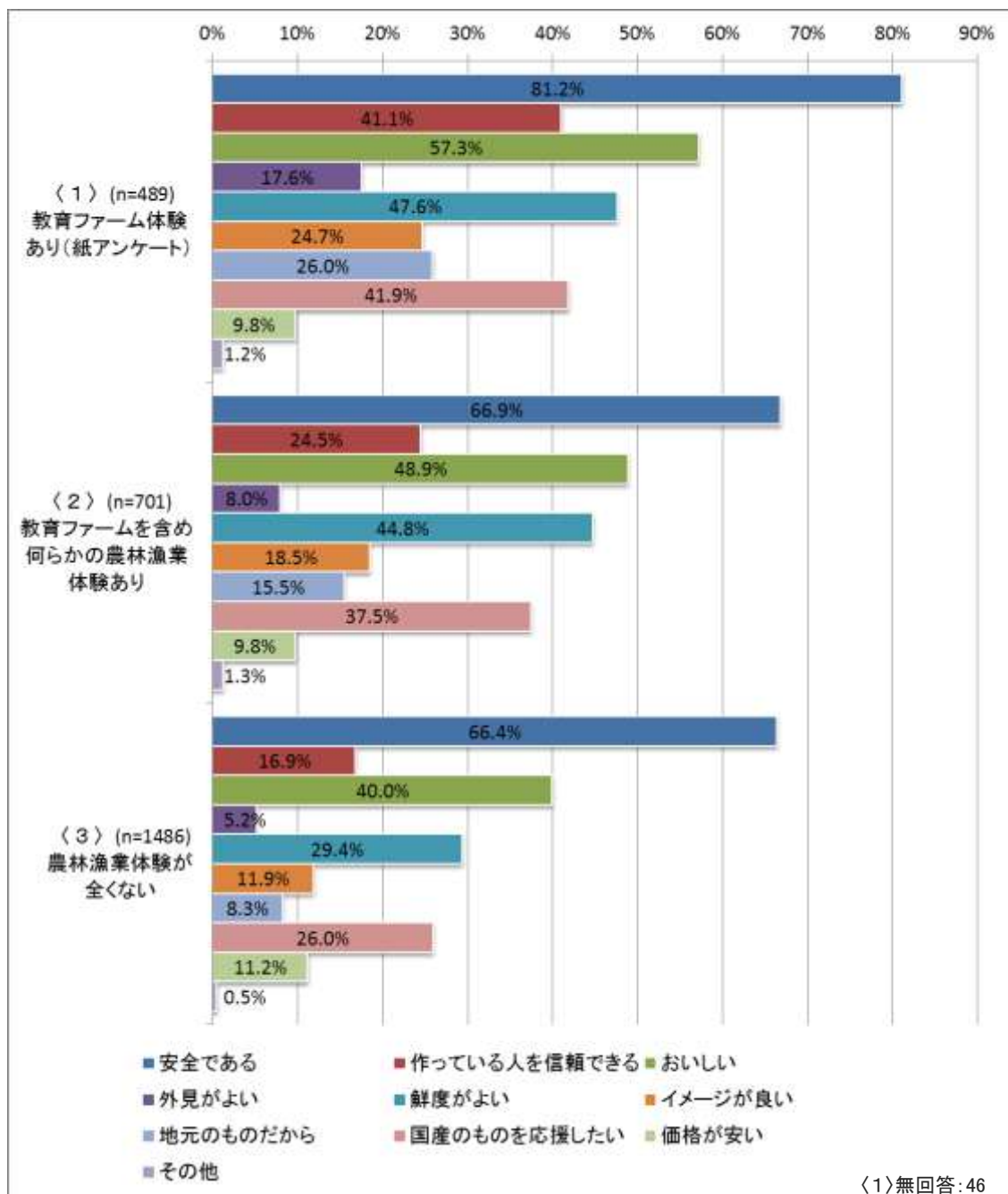


図 42 日本産を選ぶ理由（複数回答）【果物（かんきつ類、ぶどうなど）】

Q12b. 外国産を選ぶ理由（複数回答）

- 果物の購入に際して外国産を選ぶ理由としては、どのグループも半数程度の回答者が「価格が安い」ことを理由に挙げている。他の食品と比べると、外国産品を選ぶ理由として「おいしい」を挙げる回答者が若干多くなっているのが特徴的である。

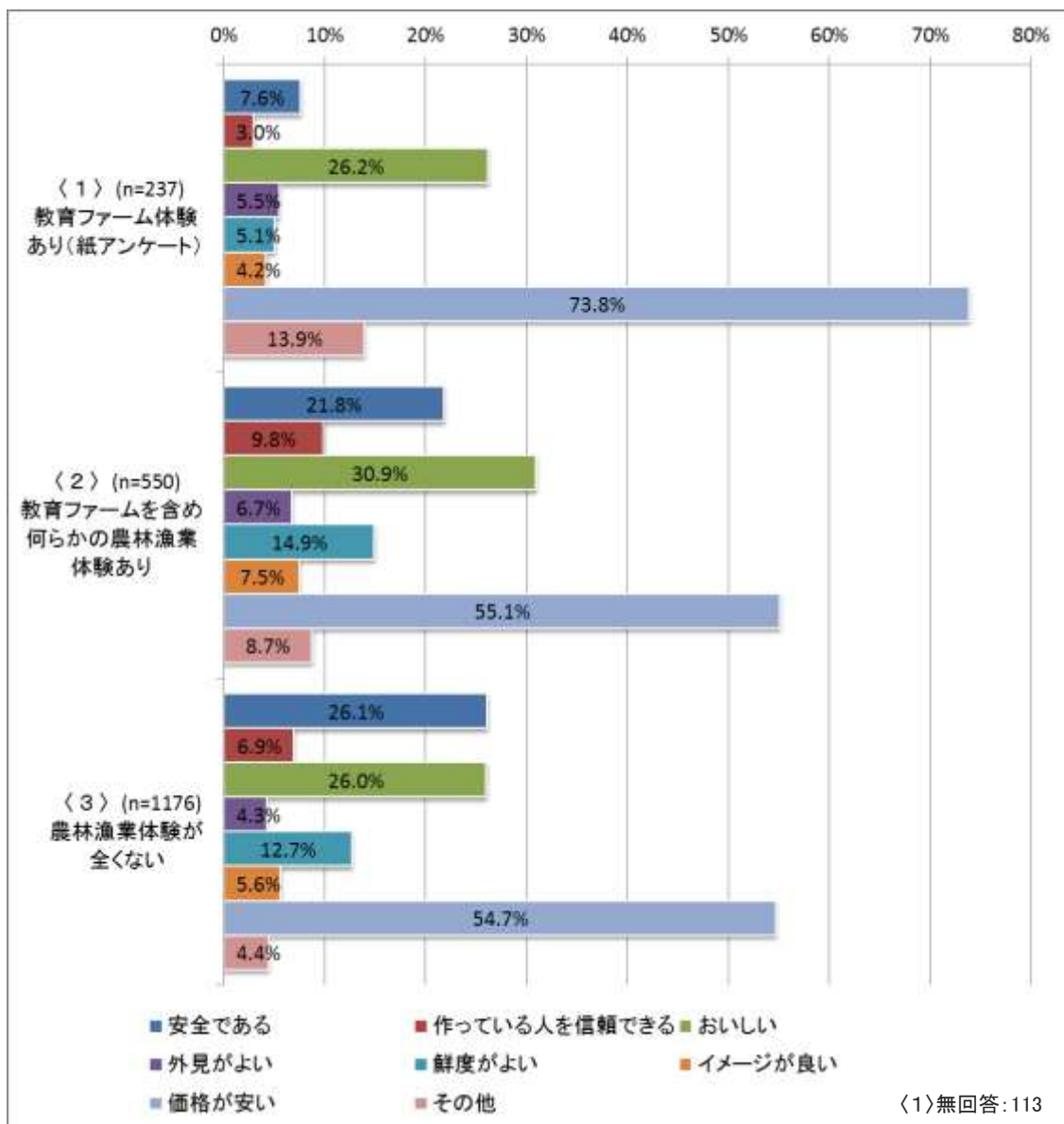


図 43 外国産を選ぶ理由（複数回答）【果物（かんきつ類、ぶどうなど）】

Q13. 食べ物を購入するとき、同じ種類の食品で日本産と外国産の価格差があった場合の選択について

【米】

- どのグループでも「日本産が 5 割高を超える価格でも、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多い。

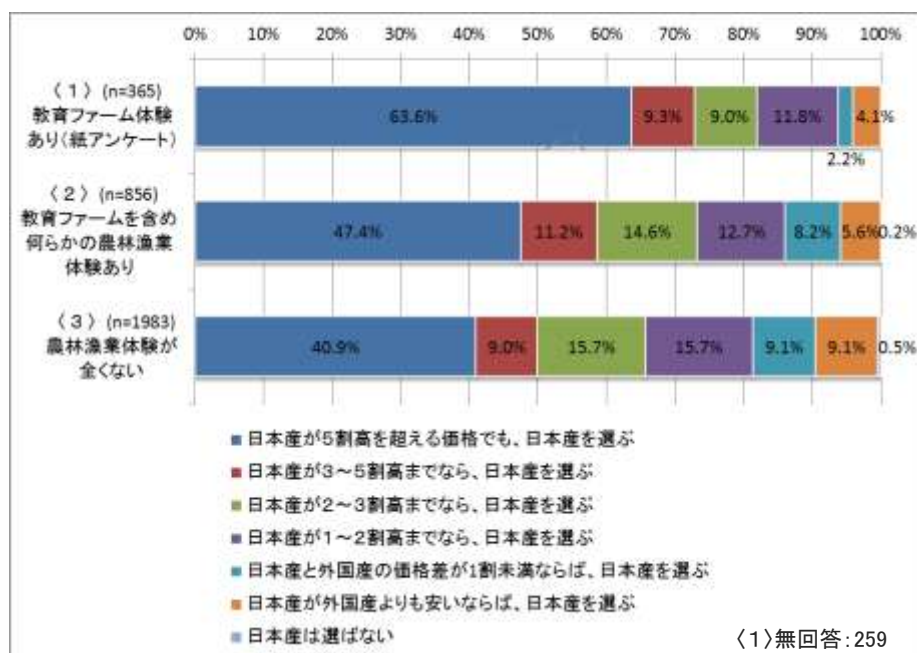


図 44 食べ物を購入するとき、同じ種類の食品で日本産と外国産の価格差があった場合の選択について【米】

【肉類（牛肉や豚肉など）】

- グループ<3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多いが、グループ<1><2>では「日本産が2～3割高までなら、日本産を選ぶ」という回答が最も多くなっていた。

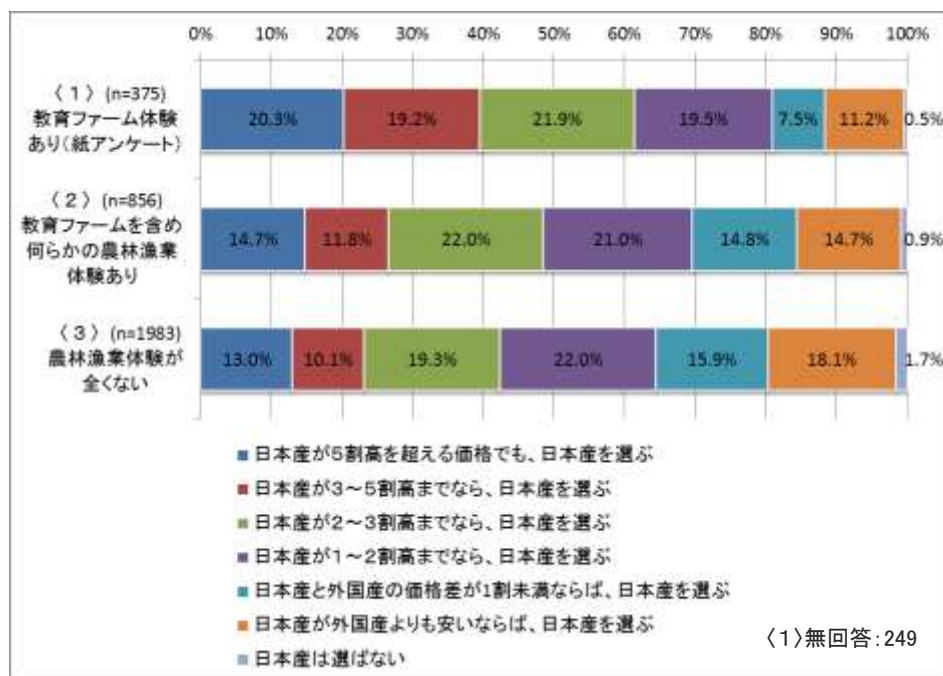


図 45 食べ物を購入するとき、同じ種類の食品で日本産と外国産の価格差があった場合の選択について【肉類（牛肉や豚肉など）】

【魚介類（サケ、タコなど）】

- グループ<1><2>で「日本産が2～3割高までなら、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多く、グループ<3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」という回答が最も多くなっていた。

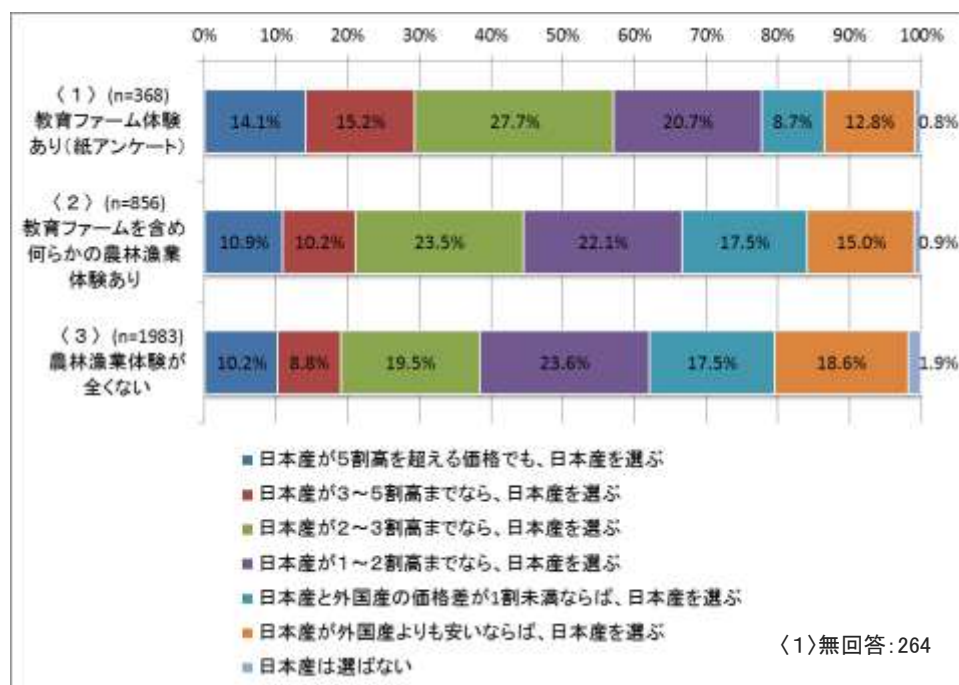


図 46 食べ物を購入するとき、同じ種類の食品で日本産と外国産の価格差があった場合の選択について【魚介類（サケ、タコなど）】

【野菜（ブロッコリー、パプリカ、ニンニクなど）】

- グループ<1>では「日本産が5割高を超える価格でも、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多かったのに対し、グループ<2><3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」が多くなっていた。

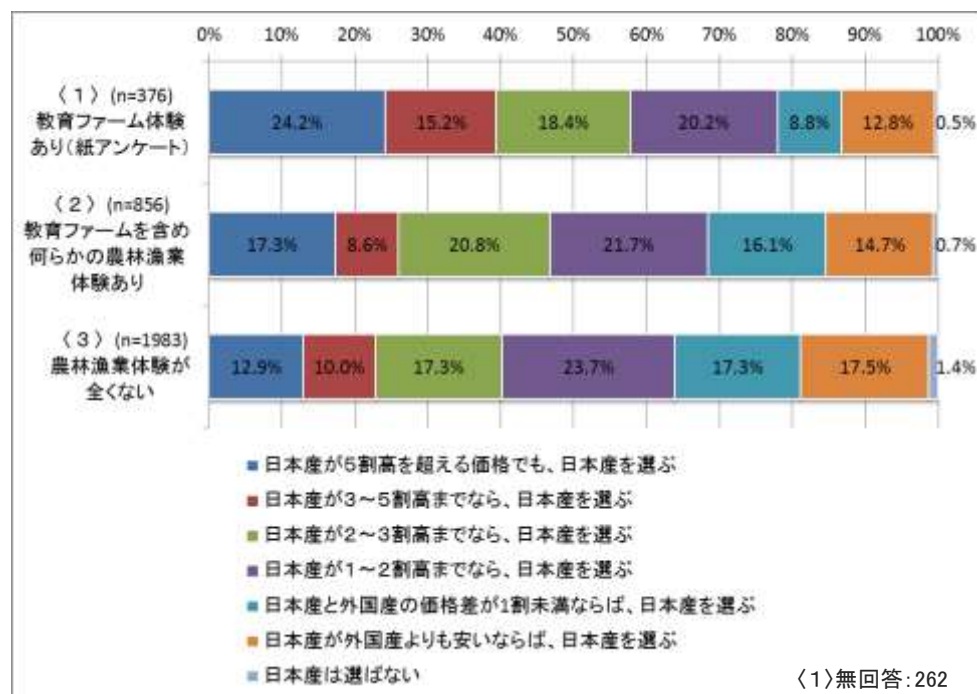


図 47 食べ物を購入するとき、同じ種類の食品で日本産と外国産の価格差があった場合の選択について【野菜（ブロッコリー、パプリカ、ニンニクなど）】

【果物（かんきつ類、ぶどうなど）】

- グループ<1>では「日本産が5割高を超える価格でも、日本産を選ぶ」という回答がもっとも多かったのに対し、グループ<2><3>では「日本産が1～2割高までなら、日本産を選ぶ」という回答が多くなっていた。

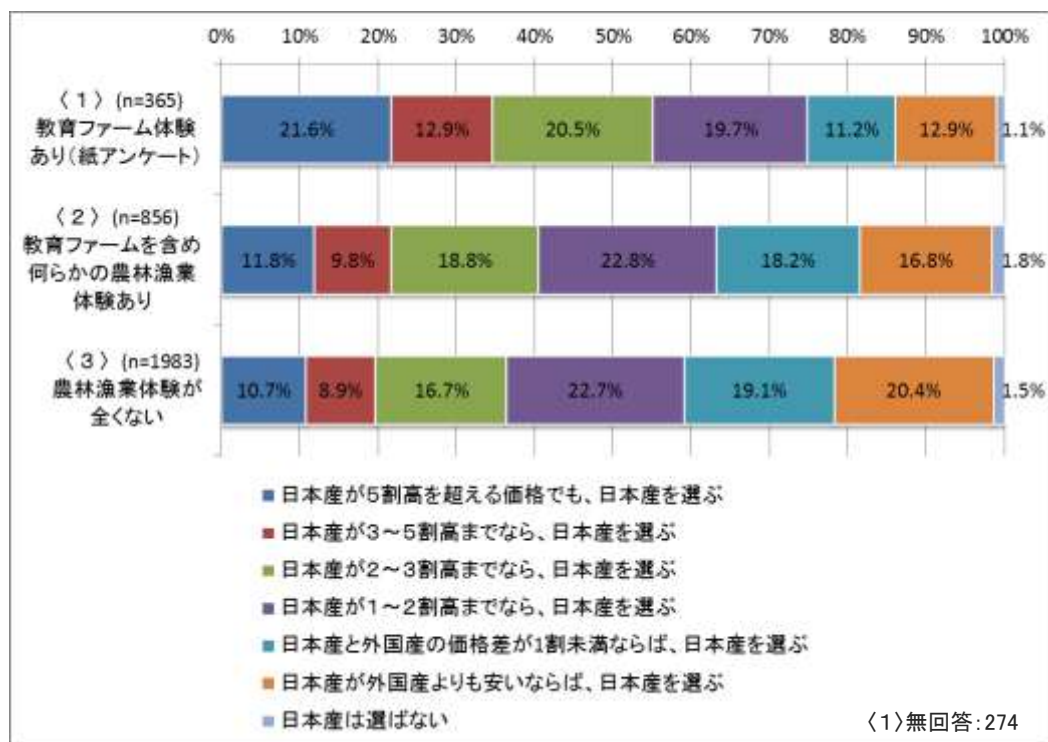


図 48 食べ物を購入するとき、同じ種類の食品で日本産と外国産の価格差があった場合の選択について【果物（かんきつ類、ぶどうなど）】

Q14. スーパーやコンビニでお弁当やお総菜などの調理済み食品を購入するとき、同じ価格で、日本産原材料が使用されていることが強調されているものと、特に表示のないもので迷った場合の購入について

- どのグループも過半数の回答者が「日本産原材料が使用されていることが強調されている食品を購入する」と回答しているものの、グループ<3>では、その他のグループに比べて、「特に意識しないで購入する」という回答者の割合が約10%以上高くなっていることが特徴的である。
- グループ<1>は、その他のグループより「日本産原材料が使用されていることが強調されている食品を購入する」と回答した者の割合が高かった。

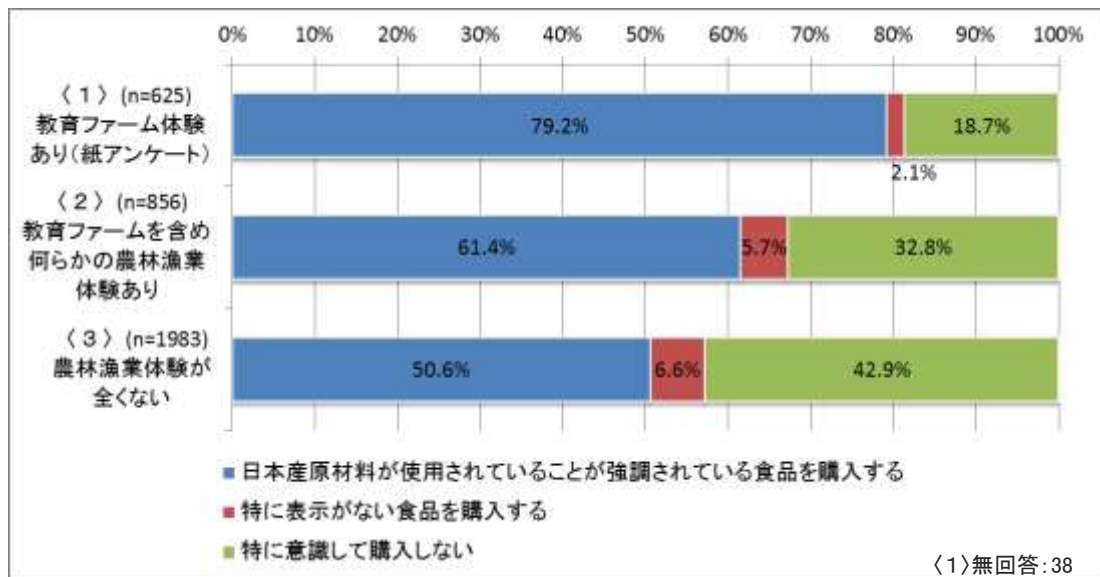


図 49 スーパーやコンビニでお弁当やお総菜などの調理済み食品を購入するとき、同じ価格で、日本産原材料が使用されていることが強調されているものと、特に表示のないもので迷った場合の購入について

Q15. 外食をするときに、同じ価格帯で、日本産や日本国内の特定の地域の原材料が使用されていることが強調されている店と、特に原材料の産地を強調していない店で迷った場合の選択について

- どのグループも約半数の回答者が「日本産原材料が使用されていることが強調されている店を選ぶ」と回答しているものの、農業体験の参加経験のないグループ<3>では、そのほかのグループに比べて、「特に意識して店を選ばない」という回答者の割合が10%以上高くなっていることが特徴である。
- グループ<1>は、その他のグループと比較すると、「日本産原材料が使用されていることが強調されている店を選ぶ」という回答がもっとも多い。

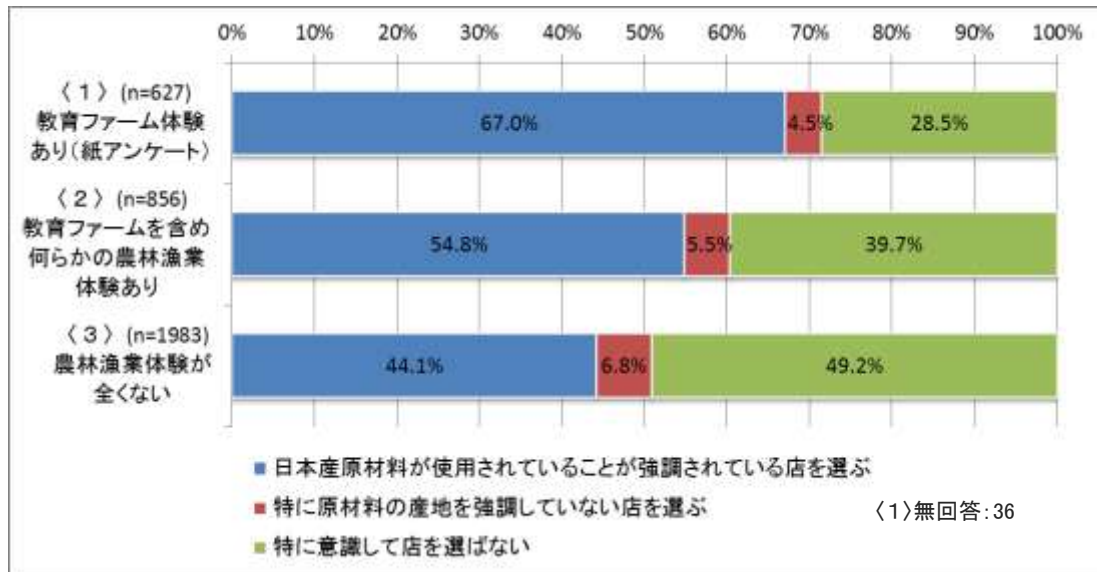


図 50 外食をするときに、同じ価格帯で、日本産や日本国内の特定の地域の原材料が使用されていることが強調されている店と、特に原材料の産地を強調していない店で迷った場合の選択について

Q16. 現在の日本の食料自給率は、カロリーベースで先進諸外国の中でも最低水準であることについて

- どのグループでもほぼ半数の回答者が「知っている」と回答しているが、農業体験の参加経験のないグループ<3>では、「知らない」という回答者の割合がほかのグループに比べて10%以上多くなっていることが特徴である。
- 教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験があるグループ<2>が、その他のグループと比較すると、「知っている」という回答がもっとも多い。

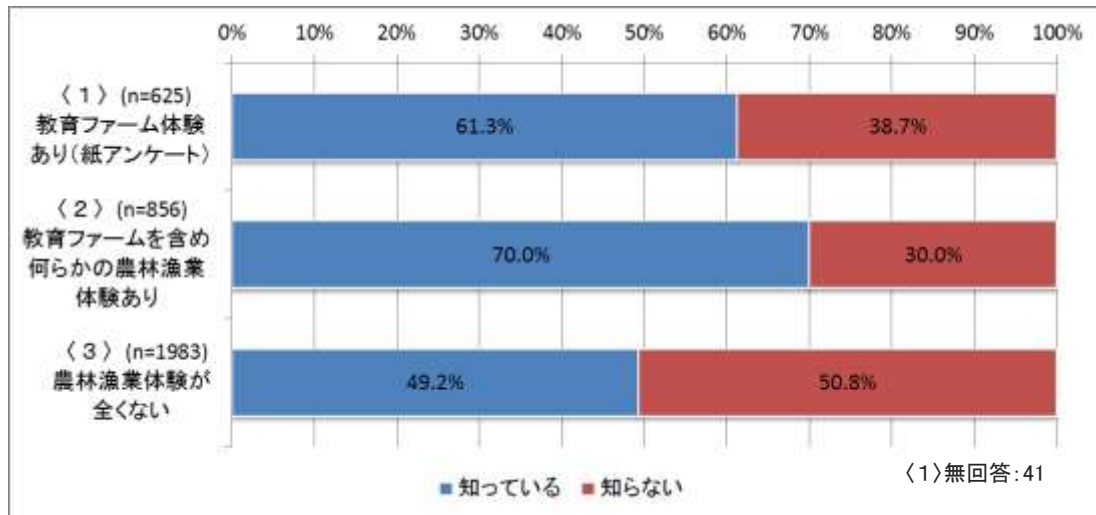


図 51 現在の日本の食料自給率は、カロリーベースで先進諸外国の中でも最低水準であることについて

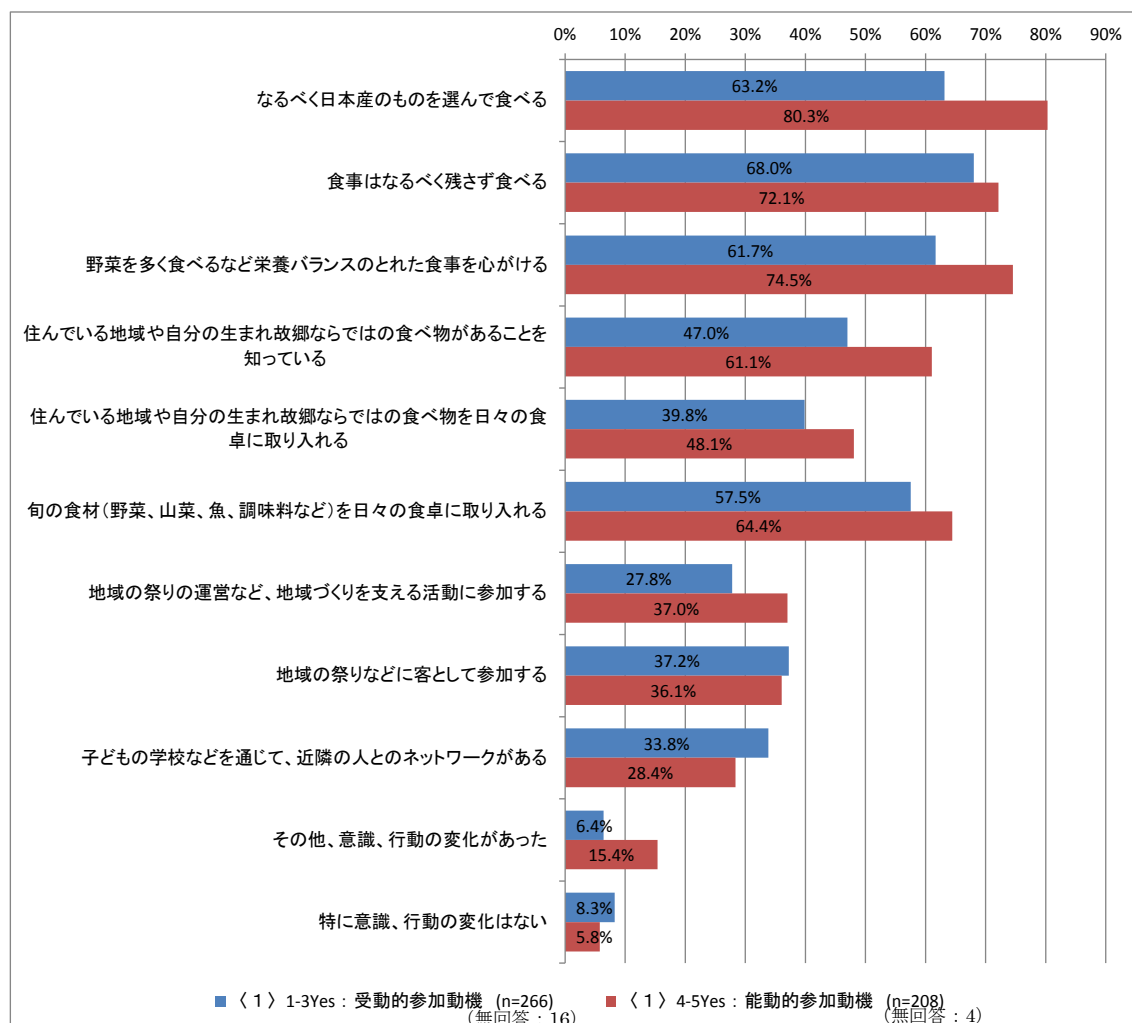
②クロス集計結果（教育ファーム体験の効果）

Q9×Q5.

農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（参加動機別）

- グループ<1><2>どちらも、受動的参加動機よりも能動的参加動機の方が、体験による効果がより高い傾向がある。

〈1〉教育ファーム体験あり（紙アンケート）



- ・ 受動的参加動機＝「特に関心はなかったが、友人・知人などに誘われたから」「会社や地域などの行事で参加せざるを得なかったから」「子供が参加したから」と回答した人の合計
- ・ 能動的参加動機＝「農林水産業に関心があったから」「日頃から国産の米や野菜などを食べていて、その生産現場が知りたかったから」と回答した人の合計

図 52 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（参加動機別）
〈1〉教育ファーム体験あり（紙アンケート）

〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり

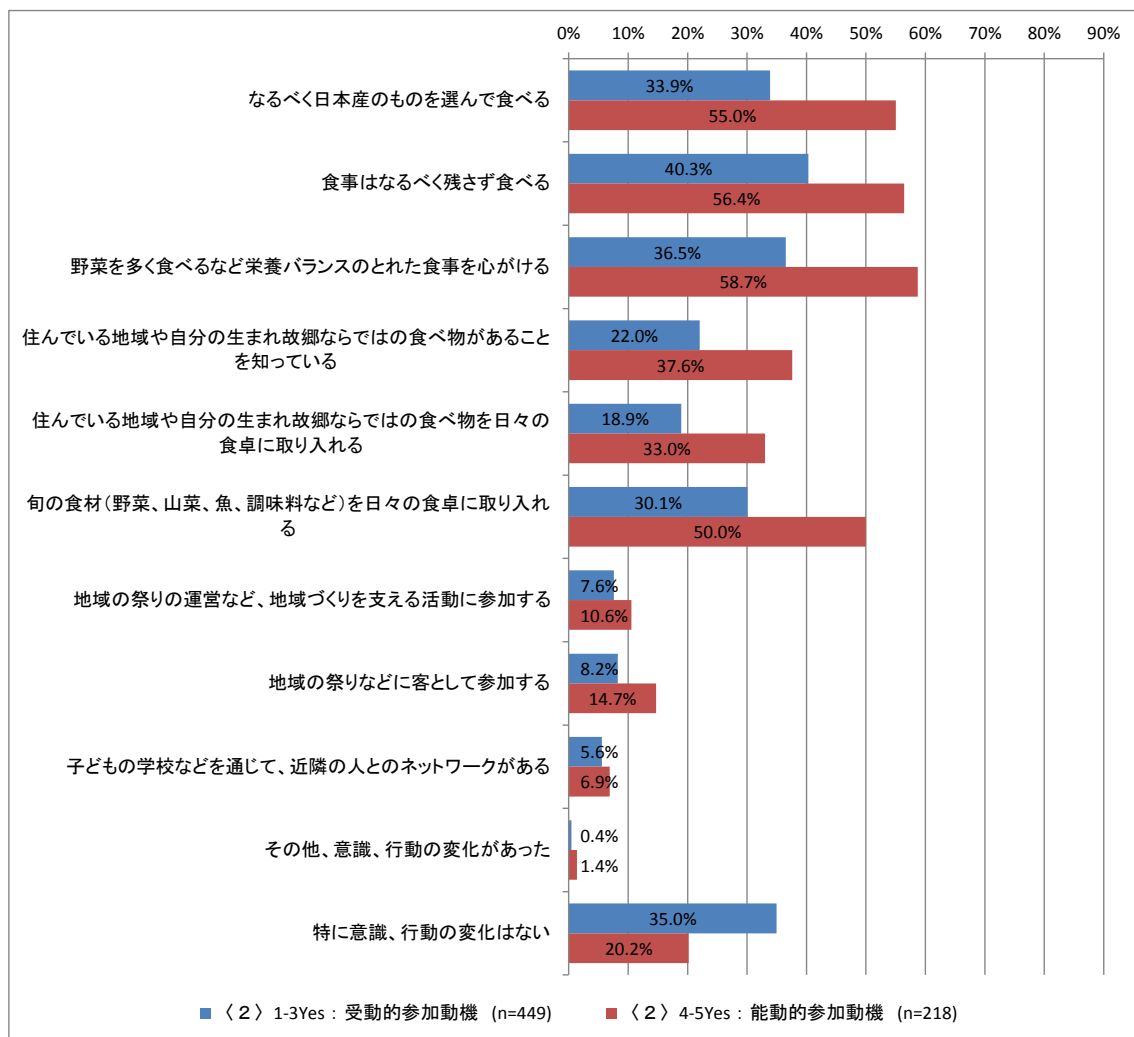


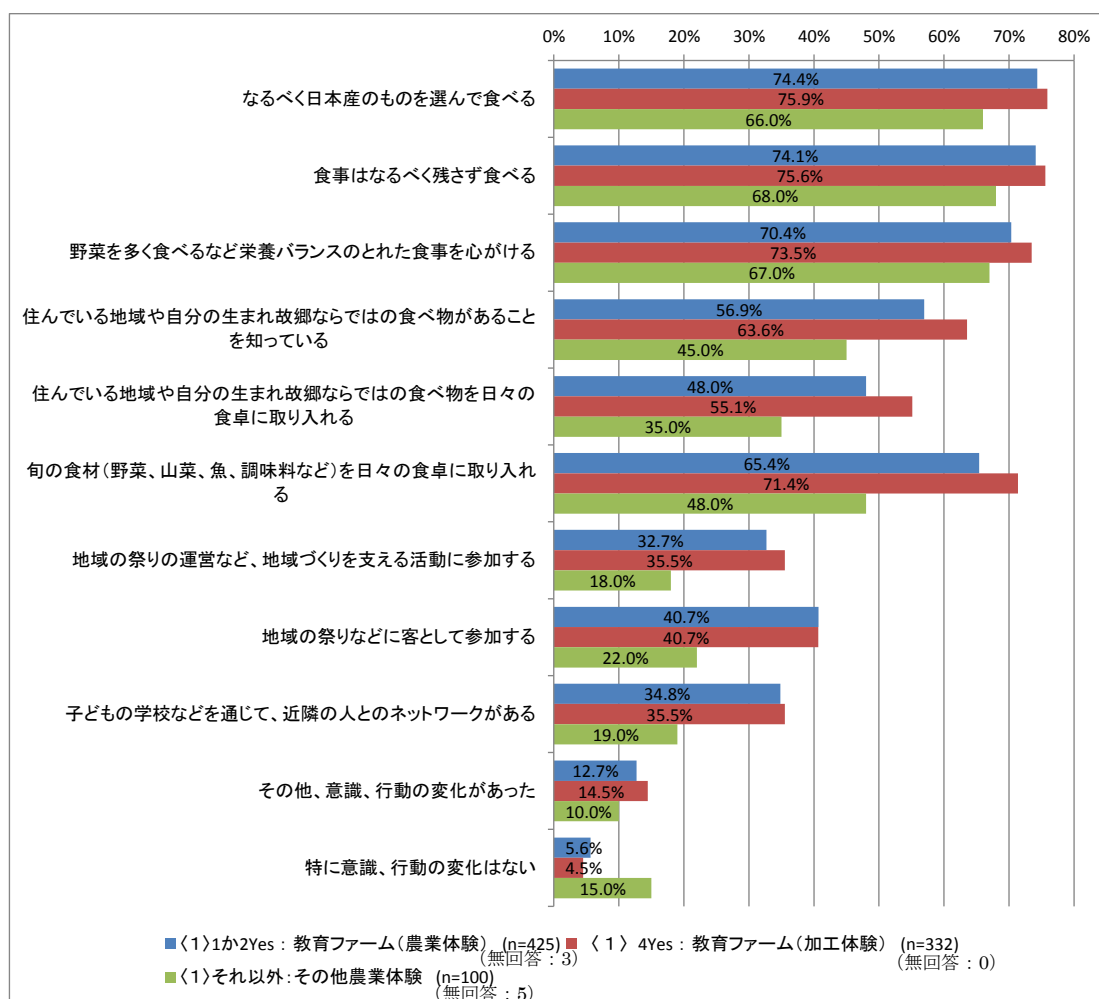
図 53 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、
より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（参加動機別）
〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり

Q9×Q6.

農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（体験種類別）

- グループ<1><2>どちらも、教育ファーム体験の方が、その他の農業体験よりも体験による効果が高い傾向がある。
- 教育ファーム体験のうちでも、加工体験の方が、より体験効果が高い傾向がある。なお、加工体験をした人の 77.7%が農業体験もしており、二つを同時に経験することにより、より高い効果があると考えられる。

〈1〉教育ファーム体験あり（紙アンケート）



- ・教育ファーム（農業体験）＝「生産者と交流しながら田植え・稲刈り・野菜収穫などの体験」「体験農園・市民農園（農業者の指導あり）」のいずれかを回答した人の合計
- ・教育ファーム（加工体験）＝「収穫物を使った食・加工体験（餅つき、蕎麦打ち、炊飯、汁物作り、味噌作り等）」と回答した人の数
- ・その他農業体験＝上記のいずれも回答しておらず、「家庭菜園・市民農園（農業者の指導なし）」「観光農園等（果樹園等）での収穫体験」「その他の農林漁業体験」のいずれかを回答した人の合計

※「教育ファーム（加工体験）」があると回答した人のうち、77.7%が「教育ファーム（農業体験）」があると回答

図 54 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（体験種類別）
〈1〉教育ファーム体験あり（紙アンケート）①

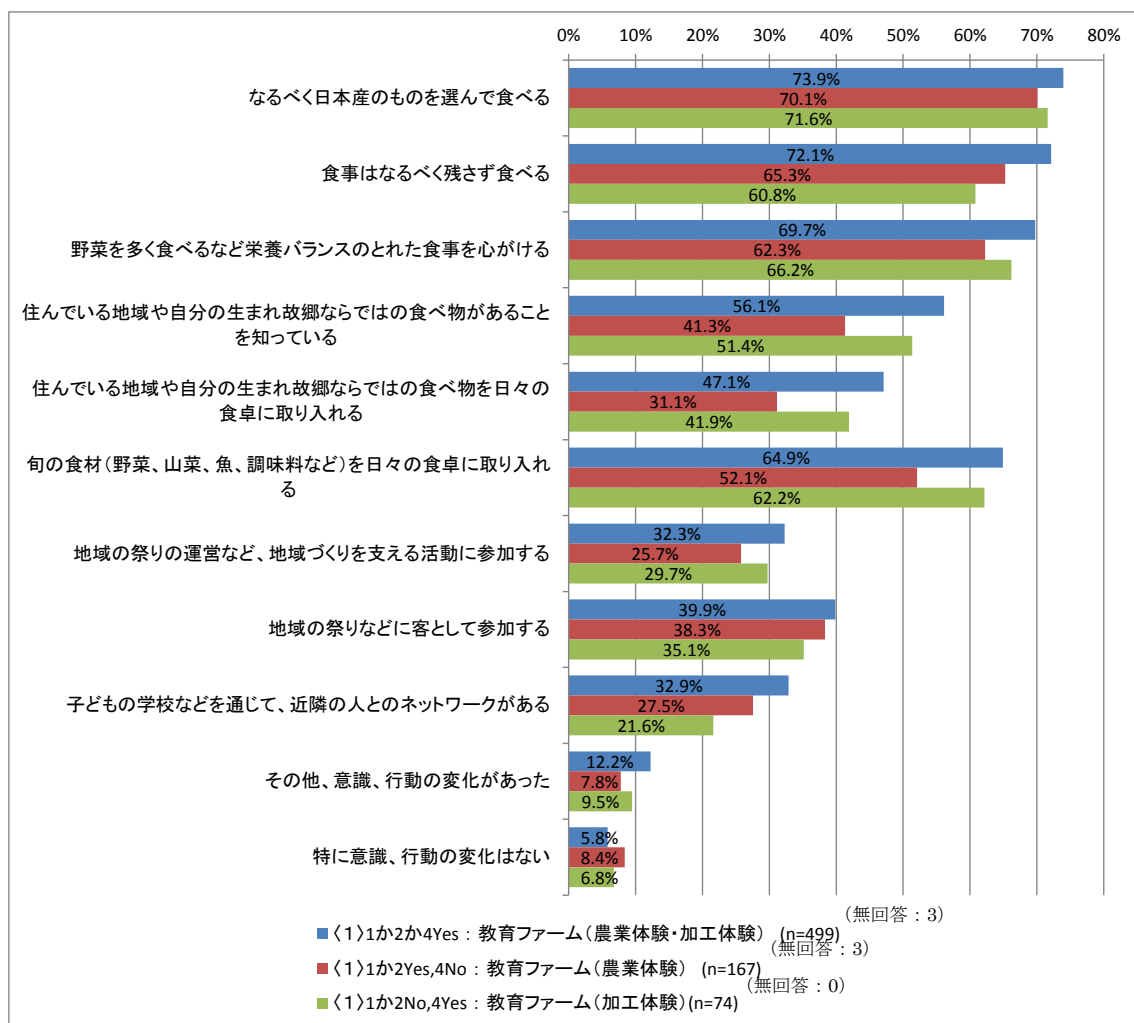
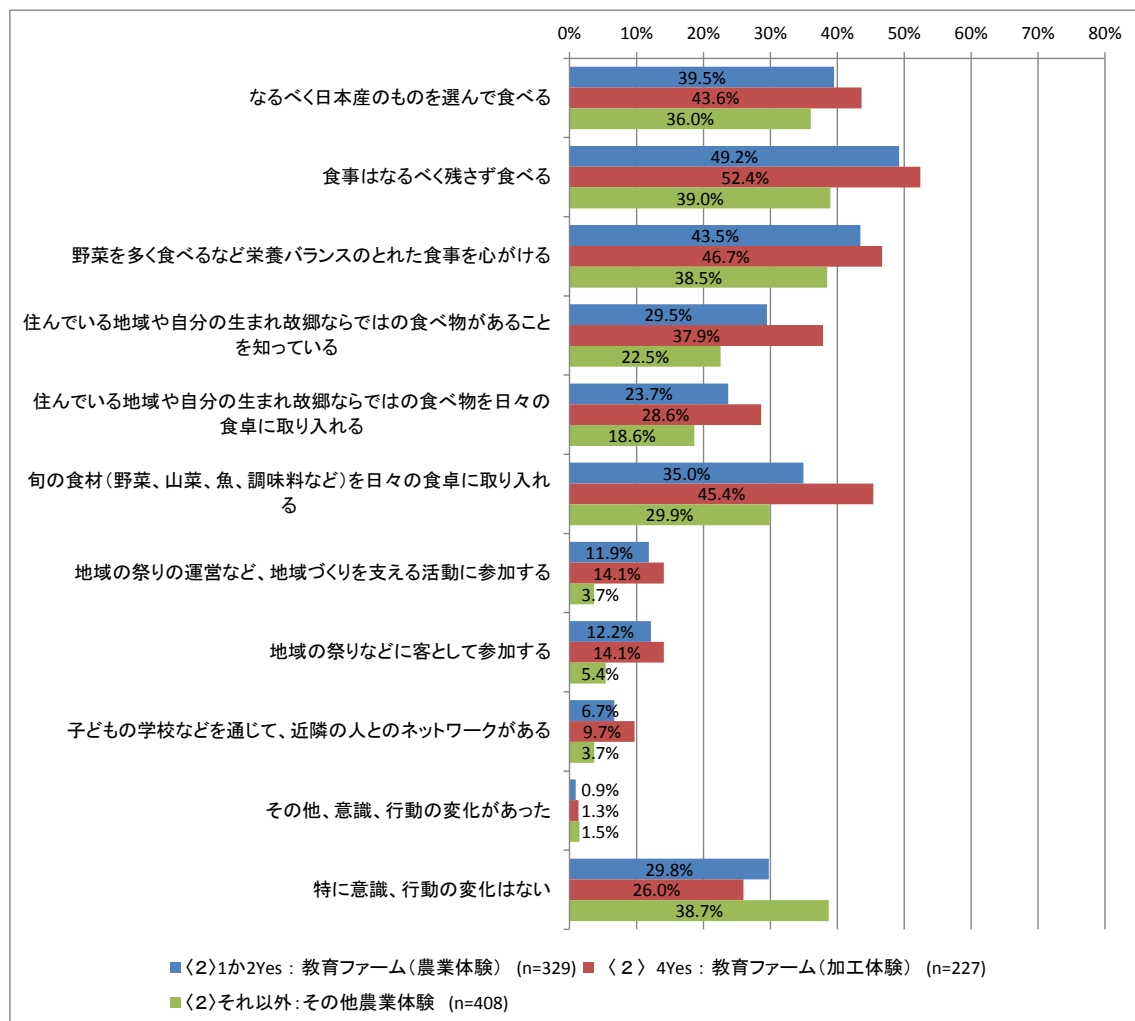


図 55 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、
より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（体験種類別）
＜1＞教育ファーム体験あり（紙アンケート）②

〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり



※「教育ファーム（加工体験）」があると回答した人のうち、47.6%が「教育ファーム（農業体験）」があると回答

図 56 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（体験種類別）

〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり①

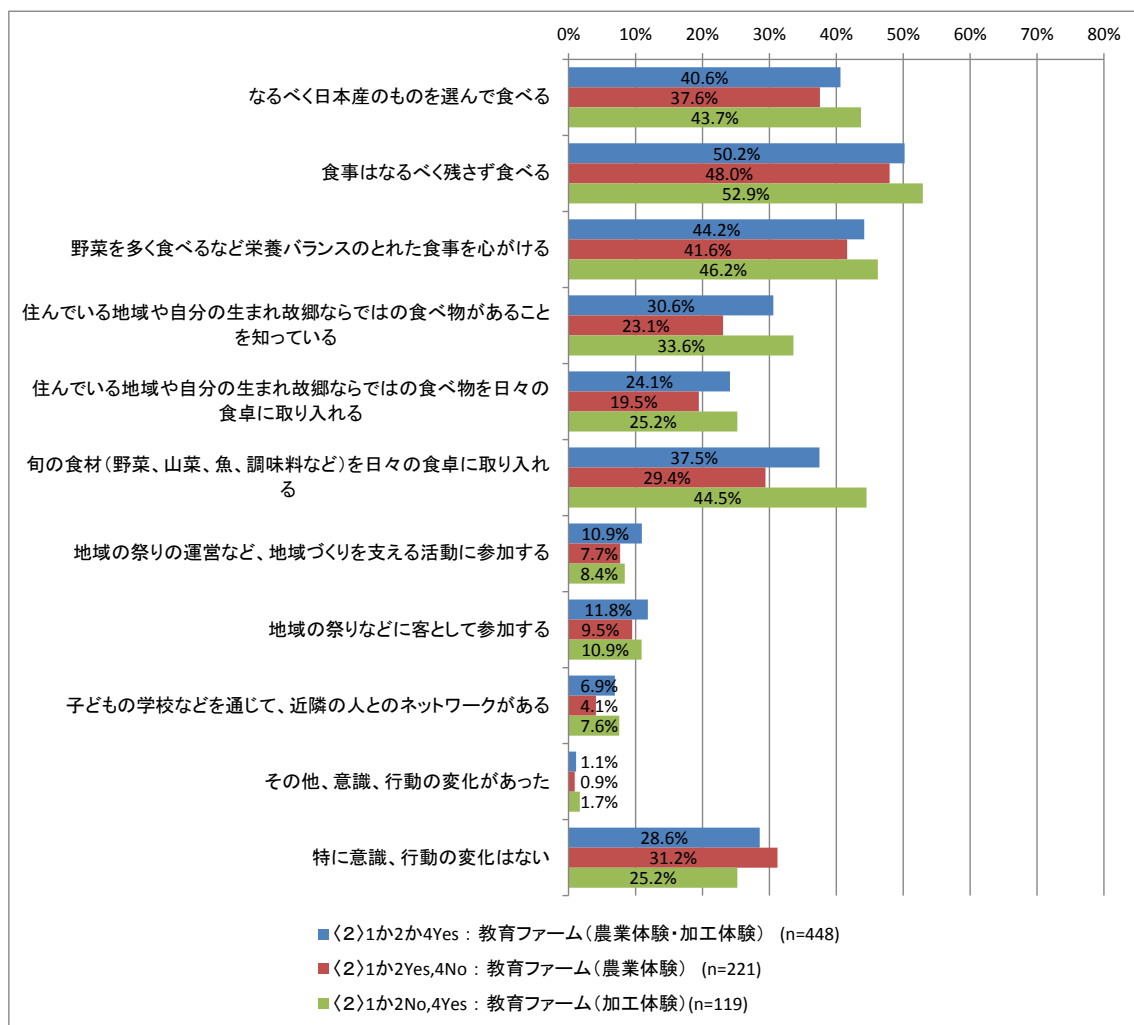


図 57 農林漁業の体験活動に参加したことをきっかけに、
より強く意識するようになったこと、機会が増加した行動、強まった状況（体験種類別）
〈2〉教育ファームを含め、何らかの農林漁業体験あり②